

公益社団法人日本地球惑星科学連合
平成 28 年度 第 5 回理事会

開催日時 平成 28 年 11 月 25 日 (金)
15 時 00 分から 18 時 00 分

開催場所 東京大学理学部 3 号館 320 号室
(東京都文京区本郷 7-3-1)

平成 28 年度第 5 回理事会議事次第

1. 開 会

議事内容

2. 審 議 事 項

- 第 1 号議案 新入会員承認の件
- 第 2 号議案 賛助会員入会承認の件
- 第 3 号議案 委員会委員承認の件
- 第 4 号議案 地学教育小委員会の解散の件
- 第 5 号議案 その他

3. 報 告 事 項

- 1.川幡代表理事職務報告
- 2.中村正人理事(顕彰担当)職務報告
- 3.古村理事(総務担当)職務報告
- 4.北理事(財務担当)職務報告
- 5.倉本理事(ジャーナル担当)職務報告
- 6.浜野理事(大会運営担当)職務報告
- 7.大会準備 TF 報告
- 8.教育検討委員会活動報告
- 9.ダイバーシティ推進委員会活動報告
- 10.環境災害対応委員会活動報告
- 11.その他

4. 閉 会

(資 料)

前回議事録

平成 28 年度第 4 回理事会議事録	P. 1-6
-------------------------------	--------

審議事項

第 1 号議案 新入会員承認	P.7-10
第 2 号議案 賛助会員入会承認の件	P.11
第 3 号議案 委員会委員承認の件	P.12
第 4 号議案 地学教育小委員会の解散の件	
第 5 号議案 その他	

報告事項

1.川幡代表理事職務報告	P.13-29
2.中村正人理事(顕彰担当)職務報告	P.30-33
3.古村理事(総務担当)職務報告	
4.北理事(財務担当)職務報告	別添
5.倉本理事(ジャーナル担当)職務報告	P.34-37
6.浜野理事(大会運営担当)職務報告	P.38-49
7.大会準備 TF 報告	P.50-55
8.教育検討委員会活動報告	
9.ダイバーシティ推進委員会活動報告	P.56-59
10. 環境災害対応委員会活動報告	P.60-67
11. その他	

その他の資料

規則	別添
--------------	----

公益社団法人日本地球惑星科学連合
平成 28 年度第 4 回理事会議事録

1. 開催日時 平成 28 年 9 月 30 日(金)

15 時 00 分から 18 時 00 分

2. 開催場所 東京大学理学部 3 号館 3 階 320 号室

(東京都文京区本郷 7-3-1)

3. 出席者 理事数 20 名

出席理事 16 名 (定足数 11 名 会議成立)

出席監事 1 名

オブザーバー 6 名

4. 議長 理事 川幡 穂高

5. 出席役員

理事 川幡 穂高

理事 津田 敏隆

理事 田近 英一

理事 古村 孝志

理事 井出 哲

理事 ウォリス サイモン

理事 小口 千明

理事 奥村 晃史

理事 北 和之

理事 木村 学

理事 倉本 圭

理事 中村 昭子

理事 西 弘嗣

理事 浜野 洋三

理事 原田 尚美

理事 道林 克禎

監事 鈴木 義和

6. 出席オブザーバー

宇宙惑星科学セクションプレジデント 高橋 幸弘

大気水圏科学セクションプレジデント 蒲生 俊敬

大気水圏科学セクションバイスプレジデント 佐藤 薫
大気水圏科学セクション幹事 川合 義美
地球人間圏科学セクション幹事 近藤 昭彦
固体地球科学セクションバイスプレジデント 田中 聡

15時00分、理事の定数に足る出席があったので、会長川幡穂高は議長席に着き、理事会が成立することを宣言した。インターネット電話 Skype を利用し、遠隔地から参加する倉本圭理事、高橋幸弘セクションプレジデントが審議に確実に参加できることを互いに確認した。

【前回議事録確認】

第3回理事会議事録について、確認し、了承された。

7. 審議事項

第1号議案 新入会員承認の件(古村孝志理事)

定款第8条2項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を承認した。

会長の提案により総会員数について、年平均した値である「10,000人程度」と記すこととなった。

第2号議案 委員会委員の承認の件(古村孝志理事)

ジャーナル編集委員、ダイバーシティ推進委員、環境災害対応委員、教育検討委員、広報普及委員、大会運営委員、フェロー審査委員、西田賞審査委員を資料の通り承認した。

第3号議案 法人運営基本規則改定の件(古村孝志理事)

法人運営基本規則第5章会費の滞納に対する処分について、第10条2「本法人に再入会する者で、過去に未納会費がある場合は、これを納めなければならない。」の削除に関しては、すでに前の理事会でも議論されており、社員総会、学協会長会議でも反対意見が出なかったことが確認され、これを削除することが承認された。

第4号議案 『次期高等学校学習指導要領による「地学基礎」の内容精選化の提言』について

議案提出者の教育検討委員会畠山正恒委員長が欠席の為、同委員会西弘嗣副委員長より説明があった。提言の内容及び文章に関しては、さらなる検討を必要とすると判断された。これを委員会に戻し、理事会メンバーも含めたメールでの検討を要請することとなった。

第5号議案 「団体社員の体制および規則」について

2017年の社員総会で定款の改定を議事として諮ることを予定している。それに向けての準備として、次回(10月25日開催予定)学協会長会議に提出する、定款の改定案、それに付随する基本規定の改定案、社員総会で定める必要のある代議員数、及び学協会長会議規則等について検討した。

また、新規に設置予定の学協会長会議幹事会に関して、構成及び任務等について議論された。これらについては、次回、学協会長会議で説明し、2017年の学協会長会議で了承を受けた上で、2017年の社員総会に提出する。なお、代議員数の案については、150名として学協会長会議に提案することとなった。

第6号議案 大規模アンケート協力学会取扱いに関する内規のメール審議依頼について
原田理事より、男女共同参画学協会連絡会から依頼のあった、男女共同参画学協会大規模アンケート実施に際する協力学会の取扱い(協力学会の承認、費用、アンケートデータの取扱い)について説明があり、費用負担は求めない、全体の集計結果の報告を行うがデータの提供は行わない、という内容で承認された。

8. 報告事項

(1)川幡穂高代表理事職務報告

7月31日(土)から8月5日(金)到北京にて開催されたAOGSへの出展報告があった。会場の規模や、出展期間中の様子は、来年のJpGU-AGU Joint Meeting2017開催に向けて参考になるとのことだった。

(2)田近英一理事(広報担当)職務報告

田近理事より、2016年11月27日開催の秋の公開講演会「変動する地球 地震・生態系を探る最新研究」について報告があった。

(3)中村正人理事(顕彰担当)職務報告(津田敏隆理事 代理報告)

フェロー募集および西田賞候補者募集が始まり、HPに掲載されているとの報告があった。

(4)古村孝志理事(総務担当)職務報告

古村理事より2016年11月23日に開催される全国フォーラム「2つの非営利法人制度のあり方を考えるフォーラム」に参加し、パネルディスカッションを行うことが報告された。

(5)北和之理事報告(財務担当)職務報告

北理事より、昨年に引き続き、理事会メンバーに、周辺に広く寄附の依頼をお願いしていただきたいとの要請があった(注: 役員の寄附は税額控除法人となるのに必要となる寄附者にはカウントされない)。また、2016年度(平成28年度)決算予想作成について報告があった。各セクション・委員会に、9月30日現在の予算執行状況の確認と年度末までの予算執行見通しについて、依頼メールを送るので、協力して欲しい旨の要請があった。決算見通し(案)については、11月の理事会に提出予定である。また、予算に計上していない新たな支出については提案の受け入れは可能とのことだった。

2017年度(平成29年度)予算書作成について、10月後半に、次年度予算書作成の為に各セクション・委員会に予算提出依頼をする予定であることが報告された。

12月の財務委員会を経て、1月理事会に(案)提出の予定とのこと。

(6)川幡理事・倉本理事(ジャーナル担当)職務報告

川幡会長より下記報告があった。

1. トムソン・ロイター(インパクト・ファクター IF)とエルゼビア(Scopus)に対し、ジャーナル評価指標取得のために、8月にIF、9月にScopusの採録申請を行った。
2. 新規編集委員・ジャーナル企画経営拡大委員が報告され、承認された。
3. セクション・プレジデントの改選に伴い、新セクション・プレジデントにジャーナル企画経営拡大委員の就任を依頼する。
4. 学術会議からの要請により、「PEPS authorship guidelines」を作成した。
5. トムソン・ロイターの日本支社を訪れ、現在の出版会周辺の活動に関する情報を得た。
6. 科学研究費補助金(研究成果公開促進費)に関係して、日本学術振興会を訪れ、個別相談会に出席した。
7. 2017年連合大会 JpGU ジャーナル特別セッション募集を開始したので、積極的に利用していただきたい旨のアナウンスがあった。

(7)木村学理事(グローバル戦略担当)職務報告

1. 木村理事より9月29日に開催されたグローバル戦略委員会の議事録(案)について、グローバル会議で議論されたMission statementの後半部分の文言の改定について「連合は、世界最先端の地球惑星科学を議論するための場を提供することにより、国際連携を積極的に進め、我が国はもとより世界の地球惑星科学コミュニティを活性化する。同時に、この分野の発展を通じて社会の安定的未来に貢献する。」とすることが認められた。

Mission statementの前半の部分については連合会長、副会長、前会長、元会長で改訂した文章を準備していくことが報告された。

2. グローバル会議のワーキンググループの名前が(英語名)Working Group for Collaborations with Asian and Pacific Academic Societies、(日本語名)アジア太平洋協力作業部会となったことが報告された。

ワーキンググループ設置に伴い下記、3名が担当委員となることが認められた。

津川卓也 情報通信研究機構電磁波研究所 宇宙環境研究室

久保田尚之 東京大学大気海洋研究所

松本淳 首都大学東京大学院都市環境科学研究科地理環境科学専攻

ワーキンググループの活動内容については年度末までに、目途を具体化することが報告された。

3. プレジデンシャルレセプションについてはグローバル戦略委員会で内容を詰めて検討事項の承認については理事会で行うこととした。

(7-1)JpGU2017年大会準備タスクフォース報告

末廣潔 TF 主査不在の為、事務局の白井より、前回第3回理事会以降の活動状況と活動方針について代理で報告があった。AGUからのセッション提案については順調で、セッション提案のAGU

側からの促進については連携中であるとのことだった。

ジョイントプログラム委員会の活動が開始したことが報告された。基調講演に関して、AGU 側からは全米科学アカデミー会長 (Marcia McNutt) さんに交渉中であると報告された。

(8) 浜野洋三理事 (大会運営担当) 職務報告

2017年大会はJpGU-AGU Joint MeetingとしてAGUとの共同開催となり、千葉県幕張メッセにて、2017年5月20日(土)～25(木)の間、2016年大会より一日長い6日間開催され、会場の規模も大きくなることが報告された。

現在(9月1日(木)～10月13日(木))はセッション提案の募集中である。AGUとの合同開催ということから、セッション数・人数とも2割増しを見込んで部屋等用意している。セッション提案は10月13日17時締切なので、ぜひセッション提案を周辺の皆さんに宣伝してほしいとの発言があった。

(9) 西理事 (教育担当理事) 職務報告 地学オリンピック開催報告

8月20日から27日まで三重県津市にて開催された地学オリンピックについて西理事(瀧上理事の代理)より報告があった。今年は過去最多の26か国(イタリア大会と同じ)の参加があり盛況のうちに行うことができた。メダルの数は日本としては過去最高の成績(金メダル3個、銀メダル1個)であった。

(10) セクション活動報告

サイモンウォリス理事(固体地球科学セクション)より日本人のAGU awardについて、高橋栄一氏が Fellow に、唐戸俊一郎氏が Lehmann medal を受賞することになったとの報告があった。

(11) 環境災害対応委員会活動報告

8月27日(土)、28日(日)開催の第1回防災推進国民大会出展について、高橋幸弘連絡委員の代理(川幡会長)より報告があった。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(18時5分)

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席役員は次に記名・押印する。(捺印欄配布時省略)

平成 28 年 9 月 30 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 4 回理事会

出席理事 川幡 穂高 印

出席理事 津田 敏隆 印

出席理事 田近 英一 印

出席理事	古村	孝志	印
出席理事	井出	哲	印
出席理事	ウォリス	サイモン	印
出席理事	小口	千明	印
出席理事	奥村	晃史	印
出席理事	北	和之	印
出席理事	木村	学	印
出席理事	倉本	圭	印
出席理事	中村	昭子	印
出席理事	西	弘嗣	印
出席理事	浜野	洋三	印
出席理事	原田	尚美	印
出席理事	道林	克禎	印
出席監事	鈴木	義和	印

平成 28 年 9 月～平成 28 年 10 月度 入会会員

個人情報_の為非公開とする

平成28年度会員数推移

	正会員				准会員				大会会員				AGU会員							
	入会	変更(+)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	変更(-)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)	現会員数
3月末						8021					418					1061				212
4月	107	31	3		5	8151	32	31	2		417	90	12			1151	12			224
5月	255	31	1		2	8434	233	31		4	615	362	33			1513	33			257
6月	4			776	1	7661	3				618	0				1513	0			257
7月	5		2			7664	1				619	0				1513	4			261
8月	1		3		4	7658	0			2	617	1508	5			5	5			266
9月	11	1	2			7668	1	1			617	10	29			14	29			293
10月	16		2		3	7679					617	39	96			53	96			387
11月						7679					617					53				387
12月						7679					617					53				387
1月						7679					617					53				387
2月						7679					617					53				387
3月						7679					617					53				387
	399	63	13	776	15	270	63	2	0	6	501	0	1509	0	179	0	4			387

正会員

2016/10/31 7679名

准会員

617名

大会会員

53名

AGU会員

387名

変更
准会員から正会員へ

	団体会員		賛助会員	
	入会	退会	入会	退会
3月末				
4月	50			2
5月	50			2
6月	50	1		3
7月	50			3
8月	50	2		5
9月	50			5
10月	50			5
11月				
12月				
1月				
2月				
3月	0	0	50	3
	0	0	50	0
				5

全会員

3月末	9712名
4月	9943名
5月	10819名
6月	10049名
7月	10057名
8月	8546名
9月	8592名
10月	8736名
11月	名
12月	名
1月	名
2月	名
3月	名

公益社団法人日本地球惑星科学連合入会申込書（賛助会員・団体会員）

平成28年11月8日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 会長 殿

日本地球惑星科学連合の事業を援助するため、賛助会員として入会を希望します。

団体名（正式名称）	
日本語名	特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク
英語名	J a p a n G e o p a r k s N e t w o r k
代表者	
氏 名	理事長 米田 徹
団体名 (HP等公開用)	http://geopark.jp/
住 所 (郵送物発送先)	〒101-0047 東京都千代田区内神田1-5-1 トライエム大手町ビル7階
Email	jgn_office@geopark.jp
活動内容	日本各地のジオパークを世界ジオパークネットワークのガイドラインに沿った質の高いものとするため、関係者相互の連携により調査研究及び情報収集を行うとともに、ジオパークに関する情報発信及び普及啓発を図り、もって社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする活動 (平成28年11月現在 日本ジオパーク認定43地域、世界ジオパーク認定8地域)
申込み口数 (一口10,000円で年間3口以上)	3口
担当者氏名	特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク 事務局 次長 下平明彦
住所	〒101-0047 東京都千代田区内神田1-5-1 トライエム大手町ビル7階
Email	shimodaira@geopark.jp
TEL・FAX	TEL 03-3219-2990 FAX 03-3518-9920
連合ニュースレター誌 (JGL) 配布依頼可能部 数および依頼先住所	2 部 〒101-0047 東京都千代田区内神田1-5-1 トライエム大手町ビル7階
備 考 (連絡事項など)	

※理事会で入会が承認されましたら、年会費請求書をお送りいたします。

環境災害対応委員会名簿

No.	役職		氏名	所属
1	委員長	環境・災害担当理事	奥村 晃史	広島大学大学院文学研究科
2		理事副担当	井出 哲	東京大学
3	副委員長	日本地質学会	川畑 大作	産業技術総合研究所地質情報研究部門
4	副委員長	日本地理学会	吉田 英嗣	明治大学文学部
5		理事/大気化学会	北 和之	茨城大学理学部
6		先期委員長	田中 賢治	京都大学防災研究所
7		日本応用地質学会	竹村 貴人	日本大学文理学部地球科学科
8		日本応用地質学会	井口 隆	防災科学技術研究所
9		日本気象学会	塩竈 秀夫	国立環境研究所地球環境研究センター
10		日本気象学会	小司 禎教	気象研究所気象衛星・観測システム研究部
11		水文・水資源学会	葛葉 泰久	三重大学大学院生物資源学研究科
12		日本雪氷学会	河島 克久	新潟大学災害・復興科学研究所
13		日本堆積学会	後藤 和久	東北大学災害科学国際研究所
14		地学団体研究会	宮地 良典	産業技術総合研究所
15		地球電磁気・地球惑星圏学会	小嶋 浩嗣	京都大学生存圏研究所
16		地球電磁気・地球惑星圏学会	岡田 雅樹	国立極地研究所
17		日本地質学会	小荒井 衛	茨城大学理学部理学科
18		日本地熱学会	柳澤 教雄	産業技術総合研究所 再生可能エネルギー研究センター
19		日本地図学会	宇根 寛	国土地理院
20		地理科学学会	浅野 敏久	広島大学大学院総合科学研究科
21		地理情報システム学会	後藤 真太郎	立正大学地球環境科学部
22		東北地理学会	村山 良之	山形大学大学院教育実践研究科
23		東北地理学会	大月 義徳	東北大学大学院理学研究科
24		日本リモートセンシング学会	作野 裕司	広島大学大学院工学研究院
25		日本陸水学会	知北 和久	北海道大学大学院理学研究院
26		日本第四紀学会	卜部 厚志	新潟大学災害・復興科学研究所
27		日本鉱物科学会	鈴木 正哉	産業技術総合研究所地質調査総合センター
28		日本活断層学会	小俣 雅志	株式会社パスコ
29		日本地震学会	松島 信一	京都大学防災研究所
30		日本水文科学会/日本地下水学会	林 武司	秋田大学教育文化学部
31		日本古生物学会/地球環境史学会	北村 晃寿	静岡大学理学部
32		東京地学協会	山下 亜紀郎	筑波大学生命環境系
33		日本地球化学会	益田 晴恵	大阪市立大学理大学院理学研究科
35		日本火山学会	山里 平	気象研究所
36		日本火山学会	三浦 大助	電力中央研究所 地球工学研究所 地圏科学領域
37		日本地理教育学会	青木 久	東京学芸大学教育学部地理学分野
以下	今回承認新委員			
34	交代の為退任	日本粘土学会	山崎 淳司	早稲田大学創造理工学部
34	新委員	日本粘土学会	小口 千明	埼玉大学地圏科学研究センター

November 10th- 12th @Makuhari Messe, APA Hotel, Hotel The New Otani, Makuhari, Japan

November 10th at 12:00 noon - 7:30pm @TKP Santa Maria, APA Hotel 48F

The JpGU secretariat will be waiting at the Front Reception of The Hotel New Otani at 12:45am for guidance or please come directly to the meeting room (Santa Maria at APA Hotel 48F) by 1:00 pm.

Agenda	Topic	Allotted Time
1:00pm-		
Opening Address & Self-intro	Opening address from Huixin LIU and Tetsuo IRIFUNE Program Committee (P Com) Members self-intro (23 people)	25 min
Outline of the P Com Meeting	Scheduling for 3 days	10 min
Outline of the 2017 joint meeting	Confirmation of meetings and events date	10 min
Room assignment	Assign rooms for Union and Public sessions	20 min
Confirmation on categorization	Confirm the categorization of M sessions to each section (whether the sessions are categorized properly or not)	10 min
Break		20 min
2:30pm-		
< Group work by each section >		
Time slots allocation	Check the allocated number of time slots (based on the formula)	20 min
Approval of additional requests (Reflect to gptool later)	Request to avoid parallel scheduling and consecutive time slots	30 min
	Unavailable dates	30 min
Lecture	How to use "gptool" *Gptool is a JpGU original software to make an OBI plan	30 min
	Rules and tips to construct a session allocation map(OBI)	60 min
Break		10 min
5:30pm-		
Venue Tours	Tour plan APA Hotel Makuhari Messe -Exhibition Hall -1F and 3F: conference rooms -2F: lobby	70 min
7:30pm-9:30pm Welcome Dinner @ Banquet Room Noa, APA Hotel 48F		

November 11th, 2016 9:00am-5:00pm @TKP Santa Maria, APA Hotel 48F

Agenda	Topic	Allotted Time
9:00am-		
Construct an OBI plan	Each section to construct an OBI(session allocation map) plan	180 min
Lunchtime *Lunch is provided.		
1:00pm-		
Construct an OBI plan	Each section to construct an OBI(session allocation map) plan	120 min
Break		20 min
3:20pm-		
Merge OBI plans	Merge all OBI plans from each section	30 min
Adjust rooms assignment	Adjust rooms assignment	70 min

November 12th, 2017 9:30am - 11:30am

Agenda	Topic	Allotted Time
Wrap Up	Review OBI plans and room adjustments Finalize the program	60 min
Work Plan	Confirm the future work plan of the P Com	60 min

<JpGU Office Special Offer>

Roppongi Hills Tour (Those who are interested in)

Date: November 12th, 2016 After the meeting

Place: THE UNIVERSE AND ART

http://www.mori.art.museum/english/contents/universe_art/

プログラム委員会関係

11月10日

- * 感謝の意を表すため、本年は「プログラム委員会開催 party」を開催し、
会長より各プログラム委員に直接手渡した。
- * Party は今年のみ開催されたとのことだが、少しグレードを落としても
来年も開催して、JpGU の謝意を伝える場を設定した方がよいかもしれ
ない。
- * 来年の大会の時に、「プログラム委員」写真を展示の方針
- * 将来的には、プログラム委員会より、（サイエンスボードあるいはプ
レジデントを交えて）、将来（1年あるいは2年先の）発表トピックス
に関する方針などの議論の場があってもよいかもしれない。

川幡穂高

----- 11月ニュース抜粋-----

大会の使命は、口頭・ポスター発表などを通じて行われた議論を、地球惑星科学の研究活動に最大限に活かすことです。大会実施の活動の中で、JpGU の理事会は、JpGU と AGU との共同大会の企画・実施などの大枠で貢献します。そして、学問（サイエンス）の中身を編成・決定するのは、

プログラム委員会です。コミュニティからのセッション提案を受けて、将来性のある分野を振興しつつ、現状のレベルを底上げし、学問全体の活性化を目指します。これは基本的にボランティア活動となりますが、プログラム委員会の皆様には将来の地球惑星科学への貢献としてご尽力いただくこととなります。

----- 11月ニュース英語抜粋-----

The mission of the meeting is to discuss scientific issues having oral and poster presentations and to maximize research activities on Earth and Planetary Science. A board of JpGU will contribute to the meeting by setting up an outline of the meeting. The secretary office will also work hard to manage and be prepared to have a successful meeting. Furthermore the Program Committee plays a very important role in organizing the contents of the science in the meeting. This work is essential to the scientific activity in the meeting. Therefore I would like to express our sincere appreciation for the effort and contribution to the work of the Program Committee for the JpGU-AGU Joint Meeting 2017.



Japan Geoscience Union

URL: www.jpgu.org Mail: office@jpgu.org

Dr. Huixin Liu
Earth and Planetary Science Division
Kyushu University SERC
Kyushu University
Fukuoka, Japan

Dear Dr. Huixin Liu,

On behalf of everyone at JpGU, I would like to express our sincere thanks for the contribution you made to the work of the Program Committee for the JpGU – AGU Joint Meeting 2017. We know that the scientific program is absolutely critical to the success of next year's meeting, and we are most grateful for your help in its construction. I hope that your appointment to the Program Committee has not been too burdensome but that it has also introduced you to new contacts and opportunities that will prove useful both personally and professionally.

Thank you once again for all the help, cooperation, understanding and time that you have so freely given. I am confident that you will feel that the JpGU – AGU Joint Meeting 2017 will be worth the effort.

Best regards,

A handwritten signature in black ink that reads "Hodaka Kawahata".

Hodaka Kawahata
President of JpGU

Proceedings of JpGU-AGU Joint Meeting 2017 Program Committee Meeting
2017 JpGU-AGU Joint Meeting プログラム委員会議事録

Futoshi Takahashi is responsible for this article

文責 高橋 太

Nov. 10th – 12th, 2016.

TKP Santa Maria, APA Hotel 48F

11/10 (木)

13:15 開始

Opening Address

各委員自己紹介。

プログラム委員会 ML の紹介があった。

Outline of the Meeting

Liu 委員長より本会議のスケジュールについて説明があった。

Outline of the 2017 Joint Meeting

末広委員より 2017 Joint Meeting の日程及び概要についての説明があった。

AGU 側委員より EE, EJ & JJ セッションに関する質問。

特に JJ セッションに関して、プログラム上で分かりやすくするのがよいと提案があった。

Room assignment

Union, Public セッションの日程を確定した。

Public セッションの EJ 開催の可能性について質問があった。

(U06 の)日程移動の可否についての議論があり、コンビーナに確認することとした。

Confirmation on categorization

14:55 Break and Group work by each section

各 M(Multi-disciplinary)セッションが割り当てられるセクションを確定した。

15:25 Resumed

Time slots allocation

各セッションからの要望を考慮して、セッション毎に全セッションのコマ数を確定した。

Approval of additional requests

各セッションからの開催不可日の要望について、それぞれ可否を確定した。

Lecture

事務局より gptool の使用についての説明を行った。

17:00 終了

11/11 (金)

09:00 開始

Construct an OBI plan

各セッション毎に帯案作成作業を開始した。

11:30~ **Lunch**

13:00 Resumed

Construct an OBI plan

各セッション毎にチェックを行い、各帯案を作成した。

14:45~

適宜 break and then resumed

Merge OBI plans

セッション毎に調整を行い、全体の帯案を確定した。

セッション間の調整を行い、プログラム案を決定した。

Adjust room assignment

セッション毎の部屋の割り当てを決定し、プログラムを確定した。

後日各セッション委員が再度内容を確認して、細かい修正等を必要に応じて行うこととした。

19:00 終了

2016年11月10日~12日

ジョイントプログラム委員会報告

日時	2016年11月10日(木)~12日(土)
会場	アパホテル東京ベイ幕張内, TKP 会議室
出席者	Liu Huixin, 入舩徹男 (プログラム委員長) 西山忠男, 樋口篤志 (プログラム副委員長) 高橋太 (委員長補佐) 河宮未知生 (2013 プログラム委員長) プログラム委員(JpGU より) 杉田精司, 西井和晃, 堀和明, 七山太, 池田剛, 高橋嘉夫 プログラム委員(AGU より) Sushil Atreya, Shin-Ichi Ito, William Lau Craig Bina, Shamil Maksyutov 末広潔 (2017 ミーティングタスクフォース) Frank Krause (AGU office) 白井佳代子, 井出幸子, 篠崎美典 (JpGU office)

1日目

ジョイントプログラム委員間での情報 (メンバー, 大会趣旨, 今回の会議の目的等) の確認を行い, 採択されたセッションの情報共有及び作業分担の割振りと, 翌日からの作業ツール (Gptool) のレクチャーを行った.

会議終了後, TKP 内会議室において懇親会を開催した.

この懇親会には, ジョイントプログラム委員の他, 川幡会長と中村副会長も出席し, 川幡会長より, ジョイントプログラム委員へ感謝状を手渡した.



2日目

各セッション毎にセッション委員が主体となり、帯案と呼ばれる、セッション配置の作成を行った。

帯案は、各セッションコンビナーナからの重複回避希望や、開催不可日希望を元に行える限り同分野の重複が発生しないよう考慮して作成された。

各セッション毎に作成した帯案を一つにまとめ、異なるセッション間での重複回避希望の調整を行い、全体のコマ割りを作成した。



3日目

希望者のみ、会議後のエクスカージョンとして、六本木へ移動し、森美術館で開催中の「宇宙と芸術展」と屋上のスカイデッキを見学して解散した。



今回の形態での良かった点：

- ・異なるセッション間に跨る関連セッションの調整も顔を合わせて行うことができ、問題にスムーズに対応できた。
- ・大会のプログラム編成に直接関わる委員としての役割の大きさを認識していただけたと思う。

次回以降同形態で行う場合の再考案：

- ・セッション間での作業量の違いが大きすぎ、時間の足りないセッションと、待ちの時間が多いセッションに差が出てしまった。
- ・セッション委員の専門分野以外の調整が難しいため、各セッション内である程度全分野をカバーできるような委員の配置を検討したい。
- ・会場見学を予定に入れていたが、結局誰も参加しなかったため、幕張での開催にこだわる必要はなく、アクセスの良い東京での開催を検討したい。

公益社団法人日本地球惑星科学連合
第 15 回学協会長会議議事録

開催日時 :平成 28 年 10 月 25 日(火)午後 3 時 00 分から 4 時 40 分

開催場所 :東京大学地震研究所 1 号館 2 階セミナー室

(東京都文京区弥生 1-1-1)

出席者 :

[学協会] 議長, 垠本尚義(日本地球化学会), 脇坂安彦(日本応用地質学会), 井上源喜(日本温泉科学会), 日比谷紀之(日本海洋学会), 山里平(日本火山学会), 宮本潔(形の科学会), 向山栄(日本活断層学会), 岩崎俊樹(日本気象学会), 榎並正樹(日本鉱物科学会), 森田喬(日本地図学会), 前田晴良(日本古生物学会), 小島紀徳(日本沙漠学会), 林歳彦(資源地質学会), 山岡耕春(日本地震学会), 町田功(日本水文科学会), 樋口篤志(水文・水資源学会), 宮嶋宏行(生態工学会), 島田秋彦(生命の起原および進化学会), 浜田康史(石油技術協会), 大畑哲夫(日本雪氷学会), 新谷昌人(日本測地学会), 今村隆史(日本大気化学会), 田村亨(日本堆積学会), 小野昭(日本第四紀学会), 高橋修(日本地学教育学会), 竹之内耕(地学団体研究会), 杉田文(日本地下水学会), 山崎俊嗣(地球電磁気・地球惑星圏学会), 小口高(日本地形学連合,地理情報システム学会), 渡部芳夫(日本地質学会), 村山祐司(日本地理学会), 海東達也(地理教育研究会), 野上道男(東京地学協会), 島田周平(東北地理学会), 濱本昌一郎(土壌物理学会), 篠原也寸志(日本粘土学会), 石郷岡康史(日本農業気象学会), 千葉昭彦(物理探査学会), 山室真澄(日本陸水学会), 北岡豪一(陸水物理研究会), 粟屋善雄(日本リモートセンシング学会), 田近英一(日本惑星科学会), 西弘嗣(地球環境史学会), 服部克己(日本大気電気学会)

[日本学術会議] 大久保修平(日本学術会議地球惑星科学委員会委員長)

[連合] 川幡穂高(会長), 田近英一(副会長), 中村正人(副会長)

(敬称略)

議事内容 :

1. 前回議事録確認

前回会議議事録を確認した。

2. 日本地球惑星科学連合活動報告

(1)2017 年連合大会準備状況報告(川幡会長)

2017 年連合大会の開催状況について川幡会長より報告があった。会期中の日程やスケジュール、開催会場について説明があった。2017 年大会開催日程は例年より一日多い 6 日間(土曜日から)の開催となること、「アイスブレイカー」や「International Mixer Luncheon」も予定に入れて準備を進めていることが報告された。

セッション提案については、当初の予想を大きく上回る、266 件の申し込みがあり大変好況であったことが報告された。

連合の今後の発展のために、加盟学協会との関係を密にすべく、学協会におかれても次回の代議員選挙に際し、代議員に立候補・推薦及び投票にむけて積極的に取り組まれることを期待する旨、川幡会長より説明があった。また、昨年に引き続き、日本地球惑星科学連合への寄附のお願いがあった。なお、寄附を頂きました皆様にお送りする領収書は、確定申告の際に「所得控除」の添付書類としてご利用いただけることが説明された。

(2) JpGU ジャーナルの進捗状況報告

PEPS (Progress in Earth and Planetary Science) の編集・出版状況について川幡会長より報告があった。ジャーナルは現在、順調な編集・出版を進めている。

トムソン・ロイターとエルゼビアに対し、ジャーナル評価指標取得のため、IF、Scopus の採録申請を行った。順調に受理されれば、2018 年に付与される予定である。

PEPS に投稿された方を対象に外国人招待者のトラベルサポートを積極的に進めている。2017 年度に開催予定の国際会議があれば、事務局か編集長にご連絡を、との紹介があった。

(3) 団体社員の体制および規則について

連合の団体社員の体制変更に伴う規則の変更について、川幡会長より説明があった。

幹事会設置について、議論され、以下の内容を理事会に提案することとなった。

(3-1) 規則について

1. 学協会長会議規則(案)に目的を追記した規則を理事会で作成する。
2. 法人運営基本規則の第 8 章から上記 1 の学協会長会議規則を参照できるようにする。
3. 法人運営基本規則の第 8 章、「学協会長会議」に幹事会について記載する。

(3-2) 申し合わせについて

学協会長会議幹事会の運営に関する申し合わせ(案)を理事会と学協会長会議で作成する。

(3-3) 幹事会メンバーについて

第 7 回理事会(3 月開催)までに前議長(海洋学会, 日比谷会長)と現在の議長(地球化学会, 塚本会長)とで検討し、年内を目標にまとめる。

(3-4) 理事会へのリクエストについて

1. 規則か申し合わせに、理事会へのオブザーバとしての幹事会の意見を尊重する、という内容を記載することが求められた。
2. 幹事会について規則に記載する。

3. 日本学術会議の近況報告 (日本学術会議地球惑星科学委員会 大久保委員長)

(1) 日本学術会議のこれまでの活動

大久保委員長より、日本学術会議の活動報告があった。大型研究計画の選考について、防衛装備庁の安全保障技術推進制度に対する対応、次期の会員・連携会員の選考、電子ジャーナル問題、原発事故等による放射性物質の移流・拡散、分科会の活動について、それぞれ報告があった。

4. その他

(1)日本気象学会、岩崎会長より、「原子力関連施設の事故に伴う放射線物質拡散に関する作業部会」の活動について報告があった。日本学術会議での公開シンポジウムが行われるなどの報告があった。

(2)地球化学会、塚本会長より、6月26日から7月1日に開催された「ゴールドシュミット会議 2016(横浜)」について、報告があった。参加者は69カ国から約3740名にのぼり、盛会であった旨が報告され謝辞が述べられた。

(3)日本古生物学会、前田会長より、「熊本・大分地震で被害を受けた地域博物館の支援」について報告があった。連合から発出した支援に関する声明への御礼と、まだ引き続き支援を必要としている地方自治体の博物館、民間の資料館、への支援を今後お願いしたく、現在、日本地質学会とどの程度支援が必要なのか等を、調査中であることが説明された。今後、具体的な案がまとまり次第、報告されること、また、その際には皆様のご意見とご支援をお願いしたいという報告があった。

以上

社員総会決議事項

公益社団法人日本地球惑星科学連合定款（抜粋）

（法人の構成員）

第7条 この法人に次の会員を置く。

- (1) 正会員 この法人の目的及び事業に賛同して入会した地球惑星科学に関わる又は関心を持つ個人
- (2) 団体会員 この法人の目的及び事業に賛同して入会した地球惑星科学に関わる
学術 研究団体
- (3) 賛助会員 この法人の事業を賛助するため入会した個人又は団体
- (4) 名誉会員 この法人に功労のあった者又は学識経験者で社員総会において推薦された者

2 この法人は、正会員の中から選出された代議員及び団体会員をもって、公益社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下、「法人法」という。）上の社員とする。

（代議員の定数、選出方法、任期及び欠員措置）

第11条 代議員の定数は、80名以上200名以内で社員総会において別に定める数とする。

（構成）

第27条 社員総会は、団体会員及び全ての代議員をもって構成する。

2 社員総会における議決権は、団体会員及び代議員いずれも1名につき1個とする。

第6章 学協会長会議

（設置等）

第48条 この法人は、団体会員の代表者を委員とする学協会長会議を設ける。

2 学協会長会議は、理事会の諮問に応え、理事会に対し、意見を述べることができるとともに、理事会の承認のもと、その名において対外的な意見の表明ができる。

社員総会決議事項

法人運営基本規程（抜粋）

（代議員の定数）

第6条 代議員の定数は、150名とする。理事会の定めにより別に設ける代議員の選出のための正会員による選挙の日を公示した日（以下「選挙公示日」という。）の前日における団体会員の数の2倍とする。

（社員の出席）

第15条 代議員たる社員は、自ら又は他の代議員たる社員を代理人に選任して、社員として社員総会に出席する。

2 団体会員たる社員は、代表者自ら若しくはその団体の役員、会員、社員若しくは使用人を指定して又は代議員たる社員を代理人に選任して、社員総会に出席する。

2 社員総会の招集通知は、定時総会にあっては4月末日現在、臨時社員総会にあってはその開催日の3週間前の時点での社員名簿の登録に従って発すれば足りるものとする。

3 社員総会に出席する代議員者は、会場の受付にて、次のとおり、その出席資格の確認を受けなければならない。

(1) 代議員たる社員本人が出席する場合には、本人であること

(2) 代議員たる社員又は団体会員の代理人として出席する場合には、委任状等の提出によりその代理権を有する者であること

(3) 団体会員たる社員の代表者が出席する場合には、その団体の代表者本人であること

(4) 団体会員から指定を受けた役員又は使用人として出席する場合には、その旨の書面により、その団体から指定を受けた者であること

4 代理人欄が空欄の委任状が提出された場合には、社員総会の議長が選任されたものとみなす。

理事会決議事項

法人運営基本規則（抜粋）

第8章 学協会長会議

（任期等）

第15条 学協会長会議の委員は、団体会員の登録代表者が就任し、登録代表者の交代に伴い委員も当然に交代するものとする。

2 学協会長会議の議長は、委員の互選により選出する。

3 委員本人がやむを得ず出席できない場合には、団体会員にあってこれに準ずる立場の者が委員本人に代わって出席できるものとする。

4 その他、学協会長会議に関する事項は、理事会において定める学協会長会議規則による。

理事会決議事項

学協会長会議規則（案）

（趣旨）

第1条 この規則は、定款及び法人運営基本規則に基づき、学協会長会議に関し必要な事項を定めるものとする。

（任務）

第2条 学協会長会議は、理事会の諮問に応え、理事会に対し、意見を述べるができるとともに、理事会の承認のもと、その名において対外的な意見の表明ができる。【←定款第48条の再掲】理事会は連合の運営にあたり、学協会長会議の意見を尊重するものとする。

（任期等）

第3条 学協会長会議の委員は、団体会員の登録代表者が就任し、登録代表者の交代に伴い委員も当然に交代するものとする。

2 学協会長会議の議長は、委員の互選により選出する。

3 委員本人がやむを得ず出席できない場合には、団体会員にあつてこれに準ずる立場の者が委員本人に代わって出席できるものとする。【←法人運営基本規則第15条の再掲】

（学協会長会議の役割）

第4条 学協会長会議は、以下の事項等について、加盟学協会の意見を集約し、理事会へ意見を述べる。

1. 連合の活動や制度、方針について
2. 学協会と連合の将来像と相互の協力体制について
3. 国の重要課題等に対する連合の意見の集約と提言の発出について
4. その他、学協会からの連合への要望について

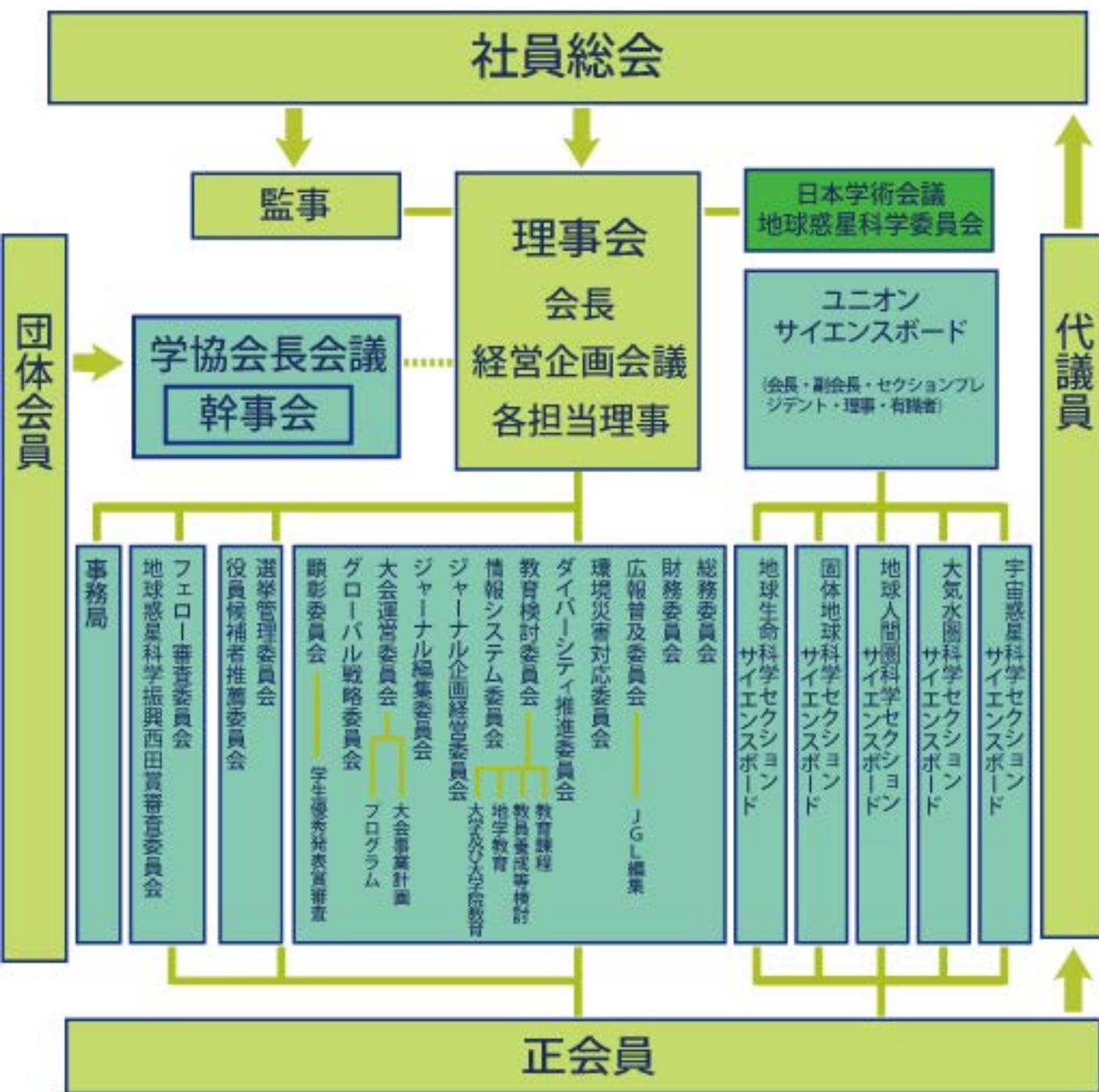
（会議の下に置く組織）

第5条 学協会長会議のもとに幹事会を置く。幹事会は、加盟学協会の意見を集約し、理事会と加盟学協会との情報共有をはかる。

2 幹事会の長は、学協会会議議長とする。幹事会の長は、学協会長会議の委員の中から、サイエンスセクションや分野、学会規模を考慮して、10名以内の幹事会メンバーを選任

する。当連合の理事・幹事は監事会メンバーとなることはできない。

- 3 幹事会のメンバーの任期は、学協会長会議の委員の任期による。ただし、団体会員の登録代表者の交代に伴い交代した幹事会メンバーは、幹事会の長の求めにより幹事会にオブザーバ出席することができる。
- 4 幹事会は、学協会長会議に先立ち開催される。また、幹事会の長が必要と認めた場合に開催するものとする。
- 5 加盟学協会との情報共有を促進するため、幹事会メンバーは、理事会にオブザーバ出席できる。



意思決定権を有する個人・組織
 アドバイザー及び・実務組織
 外部連携組織

➡ 選任・選出

2017 年度公益社団法人日本地球惑星科学連合フェロー募集について

<http://www.jpogu.org/news/fellowship/fellow2017program.html>

公益社団法人日本地球惑星科学連合は 2017 年度公益社団法人日本地球惑星科学連合フェロー（以下フェロー）の候補者を募集いたします。

日本地球惑星科学連合フェロー制度は、地球惑星科学において顕著な功績を挙げた方を高く評価し、名誉あるフェローとして処遇することを目的として設置されたものです。（関連規約はこちら）

フェローは推薦者により推薦され、会長の諮問委員会であるフェロー審査委員会において推挙された方々の中から、理事会において承認された方々となります。フェローには年齢制限、人数の制限は設けません。

【JpGU フェローの満たすべき要件】

以下のいずれかに該当する方

- （1）地球惑星科学研究領域におけるパラダイムシフトやブレイクスルーもしくは発見などを中心に、地球惑星科学の学術の発展に著しい貢献をした方
- （2）日本の地球惑星科学の発展、あるいは地球惑星科学の知識普及に著しい貢献をした方

【JpGU フェロー被推薦者】

会員・非会員を問いません。ただし、以下の者は推薦の対象となりません。

- ・ JpGU の現職理事・監事・セクションプレジデント
- ・ フェロー審査委員

【決められた年度のフェロー選出スケジュール】

前年度の 10-12 月	推薦期間
前年度の 1-3 月	JpGU フェロー審査委員会による審査期間
当該年度の 3 月理事会	JpGU 理事会による承認
当該年度の連合大会	JpGU フェロー顕彰式

【推薦の様式】

JpGU フェローを推薦する方（以下、主たる推薦者とする）は以下の書面をもって JpGU 会長に推薦をしてください。書式は特段定めません。

- ・ 被推薦者の氏名（和文および英文表記）、連絡先（所属機関、役職（引退後は、これに代わる肩書き）住所、電話番号、メールアドレス）
- ・ 被推薦者の履歴（専門分野、研究歴、受賞歴、大学・研究機関・学協会等に於ける貢献）
- ・ 主要な論文あるいは特許等、あわせて 5 編のリストおよびその別刷り（コピー可）
- ・ 全論文リスト
- ・ 推薦理由書（A4 で 2 ページ以内、日本語あるいは英語）
- ・ 主な業績（400 文字以内、日本語あるいは英語）

- ・一行推薦理由 (Short citation, 日本語および英語)

日本語 フォーマット:「(専門分野、領域等への) 顕著な貢献により」、文字数:50~80 文字程度

英語 フォーマット:「for outstanding contributions to (専門分野、領域等)」, 文字数:半角 120~250 文字程度」

(参照:2016 年度フェロー紹介ページ <http://www.jpгу.org/jpgu-fellowship/2016/2016fellow.html>)

- ・3 通のサポートレター (推薦者以外 3 名による. A4 で 1 ページ, 日本語あるいは英語, 連名を可とする)
- ・主たる推薦者 1 名の氏名と連絡先 (所属機関, 住所, 電話番号, メールアドレスなど)

【推薦方法】

・提出はワードファイル、およびその PDF 版を当該年度の推薦期間内に連合フェロー担当事務局 (jpgu_fellow(at)icloud.com) にメールにて送付してください。但し論文別刷りは PDF のみで結構です。

・ワードファイル、PDF ファイルはそれぞれ 1 ファイルにまとめてください。

・ファイルの大きさは 25Mbyte までにしてください。

・メールの件名は” JpGU フェロー推薦書 (候補者氏名)” としてください。

これ以外の件名で送信した場合、spam メールとして処理されるなど、正しく処理できない恐れがあります。

受領の確認メールが一週間以内に届かない場合は必ずお問い合わせ下さい。受領の確認メールが届いていない場合、推薦が受付されない恐れがあります。

【JpGU フェローの表彰】

- ・JpGU 連合大会開催時に JpGU フェロー表彰式を開催し、メダル等を進呈します。

【JpGU フェロー審査委員会】

・JpGU フェロー審査委員は理事会の議を経て会長が指名します。

・委員は 5 名とし、任期を 2 年とします。ただし、半数 (2 ないし 3 名) を一年毎に改選することとし、最初の委員のうち 2 名は 3 年の任期とします。

・委員は JpGU 会員の中からサイエンスセクションの配分を考慮して選びます。

・委員長は JpGU 会長が指名します。

・委員名は、委員が任期を終え、改選された時点で公表するものとします。

★推薦書送付期限:2016 年 12 月 31 日 (木) 必着

★推薦状送付先アドレス:jpgu_fellow(at)icloud.com

★フェロー制度に関するお問い合わせ:担当理事 中村正人

2016 年 9 月 20 日

中村正人

第2回地球惑星科学振興西田賞候補者募集

<http://www.jpгу.org/news/fellowship/fellow2017program.html>

この度公益社団法人日本地球惑星科学連合は第2回地球惑星科学振興西田賞の候補者を募集いたします。この賞は、国際的に評価を得ている優れた45歳未満の中堅研究者を表彰するものとして2014年に創設いたしました。賞の名称は西田篤弘会員（連合フェロー）のご提案と寄付金により賞を維持することに由来します。

1. 受賞者の条件

地球惑星科学の分野において新しい発想によって優れた研究成果を挙げ、国際的に評価を得ている方で審査年度当初（4月1日）に45歳未満の研究者が受賞対象者となります。（本年度については、1971年（昭和46年）4月2日以降に生まれた者。）原則として個人ですが、2名までの連名を認める場合があります。地球惑星科学連合会員・非会員、国籍、性別は問いません。

2. 受賞者数

10件以内。原則として各サイエンスセクションに該当する分野において最低1件を選ぶ事とし、配分においてはサイエンスセクションの規模を考慮します。

3. 推薦

i. 選考対象は他薦または自薦による候補者とし、候補者は会員・非会員を問いません。他薦の場合、正会員のみが推薦者となることができます。選考対象は推薦によるものとし、正会員による他薦、および自薦を認めます。ただし他薦の場合には本人に受賞の意思があることを事前に確認することが必要です。

ii. 推薦に必要な書類は以下の通りです。全て日本語か英語にて作成して下さい。両言語の混在は可とします。

- ・ 候補者の名前、連絡先（所属機関、住所、電話番号、メールアドレスなど）
- ・ 候補者の経歴、受賞歴
- ・ 全査読付き論文リストおよび主要な論文5編の別刷り
- ・ 推薦理由書（A4で6ページ以内）

自薦の場合は本人が、他薦の場合は推薦者が作成して下さい。

- ・ 自薦の場合は2通のサポートレター、他薦の場合は推薦者以外の2名のサポートレター

自薦の場合は本人以外の2名が作成して下さい。自薦の場合も他薦の場合もサポートレターを作成する2名については会員・非会員を問いません。

- ・ 他薦の場合は推薦者の氏名と連絡先（住所、電話番号、メールアドレスなど）

iii. 提出はワードファイル、およびそのPDF版を当該年度の推薦期間内に地球惑星科学振興西田賞事務局(jpгу_nishidasho@icloud.com)にメールにて送付して下さい。但し論文別刷り、およびサポートレターはPDFのみで結構です。

受領の確認メールが一週間以内に届かない場合は電話にてお問い合わせ下さい。受領の確認メールが届いていない場合、推薦が受付されない恐れがあります。

4. 審査委員会

- i. 各セクションから選出された委員で構成します。任期は選考を行う年度の10月から3月までとし最初の審査開始から最大4年まで再任を認めます。
- ii. 委員は受賞候補者と同様の資格を満たし、当該分野の現状に通じた経験豊かな会員で、各サイエンスセクションから複数名（最低1名）の選出に基づき構成されます。分野毎の人数はサイエンスセクションの規模を考慮し、全体で15名程度といたします。
- iii. 委員は当該年度の9月～10月の理事会で承認し、委員長は互選といたします。
- iv. 委員の名簿は審査段階では非公開とし、受賞者発表時に公開する事と致します。

5. 第2回スケジュール

- i. 2016年9月20日～12月15日：推薦期間

2016年9月～10月：審査委員を理事会で決定（委員任期2016年10月～2017年3月）

- ii. 2016年12月16日～3月理事会前日まで：審査期間
- iii. 2017年3月理事会：審査委員長は結果を理事会へ報告、報告後すみやかに受賞者をホームページなどで発表します
- iv. 受賞者を2017年の連合大会で表彰いたします。
- v. 受賞者は2018年の連合大会で記念講演を行って頂きます。

6. 顕彰方法

- i. 賞状を贈ります
 - ii. 副賞として受賞者に1件あたり50万円を贈ります。
- 賞の規則及び審査委員会規則は以下に掲示されています。

<http://www.jpogu.org/soshiki/kisoku/nishidashou.pdf>

http://www.jpogu.org/soshiki/kisoku/nishidashou_shinsa.pdf

この賞についてのご質問は jpogu_nishidasho@icloud.com にお問い合わせ致します。

平成28年9月20日

顕彰制度担当理事 中村正人

1. 論文投稿・出版状況(2016/11/12 現在)(資料 J_1)

・論文投稿数(Total:197)

～2014 年: 71 (Editorial-3, Correction-1, Review-21, Research-45, Methodology-1)

2015 年: 75 (Review-21, Research-50, Methodology-3, Editorial-1)

2016 年: 51 (Review-4, Research-45, Preface-2)

・出版論文数(Total:109 Review 論文 31%)

～2014 年: 29 (editorial-3, Correction-1, Review-7, Research -18)

2015 年: 46 (Review-15, Research-31)

2016 年: 34 (Review-10, Research-20, Methodology-1, Preface-2, Editorial-1)

・査読中 : 24 (Review-2, Research-22)

・出版校正中: 2 (Research-2)

・reject/withdrawn 済: 62 件(32.3%)

2. JpGU-AGU Joint Meeting 2017、PEPS 特別セッション採択結果(資料 J_2 (1))

PEPS に、論文投稿を確約する英語発表セッションを対象とした、海外からの招待者の旅費を支援する「PEPS 特別セッション」を募集し、9件の応募があり、一部条件をつけて 9 セッション 17 名の招待を採択した。

3. 第 5 回ジャーナル編集長会議 (H28/11/8)

新しく取り組む Data paper 論文の投稿ガイドライン、テンプレート、査読体制等について最終確認を行い、投稿受付の開始が承認された。

今年度から開始した Most accessed 賞に加え、Most cited 賞を H29 年度から制定する。2 年間で被引用数の多い論文 3 編以内を表彰対象とするが、分野的に 2 年は短いので、将来的には 5 年間で評価する方向で検討する。

トムソン・ロイター(現在 Clarivate Analytics 社)に IF を取得するための採録申請を行い、担当部署のオフィスを 11 月末に補足説明のために訪問予定。

PEPS のロゴ案を検討し、合意に至ったので採用したい。(資料 J_2 (2))

4. Data paper 投稿受付開始

11/8 の編集長会議の決定を受け、11/18 に投稿受付を開始した。出版料 (APC) は当面の間プロモーション期間として位置づけ、無料とする。

■ 出版状況

(2016/11/17)

	2014				2015				2016				Total			
	Review	Resarch	Methodology	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate/Prefa	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total
1. Space and planetary sciences	2	1	0	3	6	5	0	11	2	1	0	3	10	7	0	17
2. Atmospheric and hydrospheric	8.0%	4.0%	0.0%	12.0%	13.0%	10.9%	0.0%	23.9%	6.1%	3.0%	0.0%	9.1%	9.6%	6.7%	0.0%	16.3%
3. Human geosciences	2	5	0	7	2	3	0	5	2	3	0	5	6	11	0	17
4. Solid earth sciences	8.0%	20.0%	0.0%	28.0%	4.3%	6.5%	0.0%	10.9%	6.1%	9.1%	0.0%	15.2%	5.8%	10.6%	0.0%	16.3%
5. Biogeosciences	0	2	0	2	0	2	0	2	0	1	0	1	0	5	0	5
6. Interdisciplinary research	0.0%	8.0%	0.0%	8.0%	0.0%	4.3%	0.0%	4.3%	0.0%	3.0%	0.0%	3.0%	0.0%	4.8%	0.0%	4.8%
Subtotal	7	18	0	25	15	31	0	46	10	20	3	33	32	69	3	104
	28.0%	72.0%	0.0%	100%	32.6%	67.4%	0.0%	100%	30.3%	60.6%	9.1%	100%	30.8%	66.3%	2.9%	100%
Editorial/Correction	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	4
	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Total				29				46				34				109

■ 投稿状況

(2016/11/17)

	~2014				2015				2016				Total			
	Review	Resarch	Methodology	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate/Prefa	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total
1. Space and planetary sciences	8	9	0	17	3	8	1	12	1	6	0	7	12	23	1	36
2. Atmospheric and hydrospheric	11.9%	13.4%	0.0%	25.4%	4.1%	10.8%	1.4%	16.2%	2.0%	11.8%	0.0%	13.7%	6.3%	12.0%	0.5%	18.8%
3. Human geosciences	5	7	0	12	3	8	0	11	1	9	0	10	9	24	0	33
4. Solid earth sciences	7.5%	10.4%	0.0%	17.9%	4.1%	10.8%	0.0%	14.9%	2.0%	17.6%	0.0%	19.6%	4.7%	12.5%	0.0%	17.2%
5. Biogeosciences	1	4	0	5	0	4	0	4	0	5	0	5	1	13	0	14
6. Interdisciplinary research	1.5%	6.0%	0.0%	7.5%	0.0%	5.4%	0.0%	5.4%	0.0%	9.8%	0.0%	9.8%	0.5%	6.8%	0.0%	7.3%
Subtotal	21	45	1	67	21	50	3	74	4	45	2	51	46	140	6	192
	31.3%	67.2%	1.5%	100%	28.4%	67.6%	4.1%	100%	7.8%	88.2%	3.9%	100%	24.0%	72.9%	3.1%	100%
Editorial/Correction	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	0	-	-	-	4
	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Total				71				75				51				197

■ 編集状況

(2016/11/17 現在)

	Review	Resarch	Methodology /Debate /Preface	Subtotal	Editorial + Correction	Total
Published	32	69	3	104	5	109
Accepted including Provisionally-accepted	16.7%	35.9%	1.6%	54.2%	-	-
Under review	0	2	0	2	0	2
Rejected/Withdrawn	0.0%	1.0%	0.0%	1.0%	-	-
	2	22	0	24	0	24
	1.0%	11.5%	0.0%	12.5%	-	-
	11	48	3	62	0	62
	5.7%	25.0%	1.6%	32.3%	-	-
Total	45	141	6	192	5	197
	23.4%	73.4%	3.1%	100.0%	-	-

(1) JpGU-AGU Joint Meeting 2017 PEPS特別セッション提案採択結果リスト

	提案者	セッション分野/タイトル	No	NAME
1	Bjorn Mysen(Carnegie Institution of Washington), 大谷先生(東北大学), 岩森光(JAMSTEC) Catherine McCAMMON (Univ. Bayreuth, Germany)	【固体地球科学】 Fluid-mediated processes and properties near convergent plate boundaries	1-1	Prof. Peter Van Keken (Carnegie Instrn. Washington, USA) Department of Terrestrial Magnetism
			1-2	prof. Bruno Reynard(Ecole Normale Supérieure de Lyon, FRANCE)
2	和田 浩二 (千葉工業大学惑星探査研究センター)	【宇宙惑星科学】 Regolith Science	2-1	Prof.Daniel J. Scheeres(The University of Colorado Boulder) Department of Aerospace Engineering Sciences Colorado Center for Astrodynamics Research
			または 2-1	Dr.Paul Sanchez(The University of Colorado Boulder) Department of Aerospace Engineering Sciences Colorado Center for Astrodynamics Research
			2-2	Dr. Julie Brisset(University of Central Florida) Florida Space Institute – Center for Microgravity Research Department of Physics
3	ジェンキンス ロバート(金沢大学) 渡部 裕美(JAMSTEC) 延原 尊美(静岡大学) 間嶋 隆一(横浜国立大学)	【地球生命科学】 Evolution of Chemosynthetic Ecosystem in Earth History	3-1	Dr.Adrian Glover(Natural History Museum, London, UK)
			3-2	Prof.Pei-Yuan Qian (Hong Kong Baptist University) → Hong Kong University of Science and Technology?
4	ELENA PETROVA (Lomonosov Moscow State University, Moscow, Russian Federation) 松島 肇(北海道大学)	【地球人間圏】 Natural hazards impacts on the society, economics and technological systems	4-1	Prof. Vivek Shandas, Portland State University, USA
5	小口千明(埼玉大学)	【地球人間圏】 Conservation of natural geosites and cultural heritages: weathering process and damage assessment	5-1	Prof. Akos Torok (Budapest University of Technology and Economics ,Hungary)
			または 5-1	Dr. Magdalini Theodoridou (University of Cyprus, Nicosia,Cyprus)
			5-2	Miguel Gomez-Heras (Instituto de Geociencias (CSIC- UCM),Madrid, Spain)
6	小口千明(埼玉大学)	【地球人間圏】 Non destructive techniques applied to stone cultural heritages	6-1	Celine Thomachot-Schneider (University of Reims Champagne- Ardenne,France)
			6-2	Patricia Vázquez (University of Reims Champagne- Ardenne,France)
7	深畑幸俊(京都大学 防災研究所 地震予知研究センター) Robert Holdsworth(Durham University), Jeanne Hardebeck(USGS), 岩森光(JAMSTEC)	【固体地球科学】 Dynamics in mobile belts (変動帯ダイナミクス)	7-1	Bruce Hobbs 教授(西オーストラリア大学,The University of Western Australia)
			7-2	Tim J. Wright 教授(英国リーズ大学,The University of Leeds)
8	道林克禎(静岡大学) 森下 知晃(金沢大学) Henry JB Dick(Woods Hole Oceanographic Institution)	【固体地球科学】 Hard-Rock Drilling: Oceanic Lithosphere to Island Arc Formation and Beyond(ハードロックドリリング)	8-1	Henry Dick ウッズホール海洋研究所, USA
			8-2	Mark Reagan アイオワ大学, USA
9	横川美和(大阪工業大学) 泉 典洋(北海道大学) Svetlana Kostic(San Diego State University)	【固体地球科学】 Turbidity currents: from trigger to formation of sediments and morphology(混濁流)	9-1	Svetlana Kostic(San Diego State University,USA)
			9-2	John E. Hughes Clarke(University of New Hampshire,USA) →University of New Brunswick, CANADA?

(2)PEPSロゴ案



■出版状況

(2016/9/20)

	2014				2015				2016				Total			
	Review	Resarch	Methodology	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate/Prefac	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total
1. Space and planetary sciences	2 8.0%	1 4.0%	0 0.0%	3 12.0%	6 13.0%	5 10.9%	0 0.0%	11 23.9%	2 8.3%	1 4.2%	0 0.0%	3 12.5%	10 10.5%	7 7.4%	0 0.0%	17 17.9%
2. Atmospheric and hydrospheric sciences	2 8.0%	5 20.0%	0 0.0%	7 28.0%	2 4.3%	3 6.5%	0 0.0%	5 10.9%	1 4.2%	2 8.3%	0 0.0%	3 12.5%	5 5.3%	10 10.5%	0 0.0%	15 15.8%
3. Human geosciences	0 0.0%	2 8.0%	0 0.0%	2 8.0%	0 0.0%	2 4.3%	0 0.0%	2 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 4.2%	0 0.0%	4 4.2%
4. Solid earth sciences	2 8.0%	9 36.0%	0 0.0%	11 44.0%	4 8.7%	16 34.8%	0 0.0%	20 43.5%	3 12.5%	6 25.0%	2 8.3%	11 45.8%	9 9.5%	31 32.6%	2 2.1%	42 44.2%
5. Biogeosciences	1 4.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.0%	1 2.2%	3 6.5%	0 0.0%	4 8.7%	0 0.0%	2 8.3%	0 0.0%	2 8.3%	2 2.1%	5 5.3%	0 0.0%	7 7.4%
6. Interdisciplinary research	0 0.0%	1 4.0%	0 0.0%	1 4.0%	2 4.3%	2 4.3%	0 0.0%	4 8.7%	3 12.5%	1 4.2%	1 4.2%	5 20.8%	5 5.3%	4 4.2%	1 1.1%	10 10.5%
Subtotal	7 28.0%	18 72.0%	0 0.0%	25 100%	15 32.6%	31 67.4%	0 0.0%	46 100%	9 37.5%	12 50.0%	3 12.5%	24 100%	31 32.6%	61 64.2%	3 3.2%	95 100%
Editorial/Correction	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
Total				29				46				25				100

■投稿状況

(2016/9/20)

	~2014				2015				2016				Total			
	Review	Resarch	Methodology	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate/Prefac	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total
1. Space and planetary sciences	8 11.9%	9 13.4%	0 0.0%	17 25.4%	3 4.1%	8 10.8%	1 1.4%	12 16.2%	1 2.3%	5 11.6%	0 0.0%	6 14.0%	12 6.5%	22 12.0%	1 0.5%	35 19.0%
2. Atmospheric and hydrospheric sciences	5 7.5%	7 10.4%	0 0.0%	12 17.9%	3 4.1%	8 10.8%	0 0.0%	11 14.9%	0 0.0%	9 20.9%	0 0.0%	9 20.9%	8 4.3%	24 13.0%	0 0.0%	32 17.4%
3. Human geosciences	1 1.5%	4 6.0%	0 0.0%	5 7.5%	0 0.0%	4 5.4%	0 0.0%	4 5.4%	0 0.0%	5 11.6%	0 0.0%	5 11.6%	1 0.5%	13 7.1%	0 0.0%	14 7.6%
4. Solid earth sciences	3 4.5%	17 25.4%	1 1.5%	21 31.3%	10 13.5%	23 31.1%	2 2.7%	35 47.3%	1 2.3%	15 34.9%	1 2.3%	17 39.5%	14 7.6%	55 29.9%	4 2.2%	73 39.7%
5. Biogeosciences	2 3.0%	3 4.5%	0 0.0%	5 7.5%	0 0.0%	3 4.1%	0 0.0%	3 4.1%	0 0.0%	2 4.7%	0 0.0%	2 4.7%	2 1.1%	8 4.3%	0 0.0%	10 5.4%
6. Interdisciplinary research	2 3.0%	5 7.5%	0 0.0%	7 10.4%	5 6.8%	4 5.4%	0 0.0%	9 12.2%	0 0.0%	3 7.0%	1 2.3%	4 9.3%	7 3.8%	12 6.5%	1 0.5%	20 10.9%
Subtotal	21 31.3%	45 67.2%	1 1.5%	67 100%	21 28.4%	50 67.6%	3 4.1%	74 100%	2 4.7%	39 90.7%	2 4.7%	43 100%	44 23.9%	134 72.8%	6 3.3%	184 100%
Editorial/Correction	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	0	-	-	-	4
Total				71				75				43				189

■編集状況

(2016/9/20 現在)

	Review	Resarch	Methodology /Debate /Preface	Subtotal	Editorial + Correction	Total
Published	31 16.8%	61 33.2%	3 1.6%	95 51.6%	5	100
Accepted including Provisionally-accepted	1 0.5%	8 4.3%	0 0.0%	9 4.9%	0	9
Under review	0 0.0%	20 10.9%	0 0.0%	20 10.9%	0	20
Rejected/Withdrawn	11 6.0%	46 25.0%	3 1.6%	60 32.6%	0	60
Total	43 23.4%	135 73.4%	6 3.3%	184 100.0%	5	189

2.日本地球惑星科学連合活動報告

2017年連合大会準備状況報告

【開催概要】

名称	JpGU-AGU Joint Meeting 2017
会期	2017年5月20日(土)～5月25日(木) 6日間
会場	幕張メッセ 国際会議場 (17会場×6日間) 国際展示場 (ポスター発表および展示ブース) APA ホテル東京ベイ幕張 (9会場×5日間)

【大会開催期間中の主な予定】

- 5月20日(土) パブリックセッション、アイスブレイカー
5月21日(日) パブリックセッション、高校生セッション、基調講演 PM2
5月22日(月) International Mixer Luncheon(ランチタイム/ホテルニューオータニ幕張)
Presidential Reception(夜間/ホテルニューオータニ幕張)
5月23日(火) 学協会長会議、定時社員総会、フェロー贈賞式、西田賞授賞式、懇親会等

【タイムテーブル】

AM 1	9:00～10:30
AM 2	10:45～12:15
Lunchtime	12:15～13:45
PM 1	13:45～15:15
PM 2	15:30～17:00
PM 3 (ポスターコアタイム)	17:15～18:30

【Important Dates】

2016年

9月1日(木)	セッション提案開始
10月13日(木)	セッション提案締切
11月1日(火)	出展申し込み受付開始
11月14日(月)	開催セッション・コマ割り公開

2017年

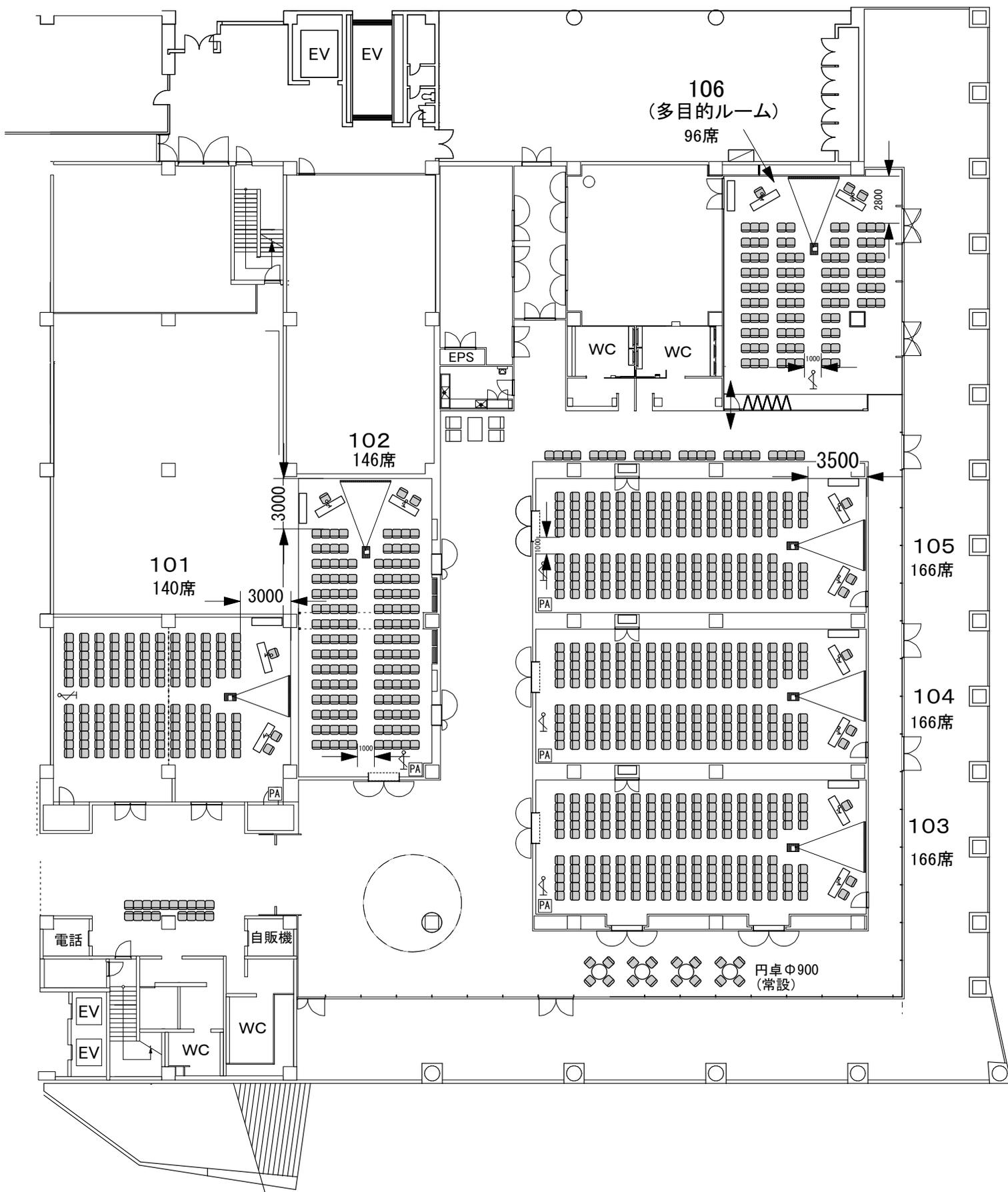
1月6日(金)	投稿・参加登録開始
2月3日(金)	投稿早期締切(～12:00)
2月16日(木)	投稿最終締切(～17:00)
3月8日(水)	採択通知
3月10日(金)	発表プログラム一般公開
5月8日(月)	早期参加登録締切(～17:00)
5月11日(木)	予稿PDF公開

session ID	母体	開催形式	タイトル	コンビナー (©:AGU ID)										共催団体	共催学会	
[U] Union													EE: 3 / E.J: 2 / J.J: 1 / Total: 6			
U	01	O&P	[EE] 地球惑星科学における学術出版の将来	川橋 穂高	小田 啓邦											
U	02	O&P	[EE] JpGU-AGU great debate: Geoscience and Society	Liu Huixin	入松 徹男											
U	03	O&P	[EE] Discoveries from Subseafloor Sampling and Monitoring using Scientific Ocean Drilling	末広 深	James A Austin	Keir Becker	村山 雅史								日本地球掘削科学コンソーシアム (J-DESC)	
U	04	O&P	[EJ] 連合は環境・災害にどう向き合っていくのか?	奥村 見史	川畑 大作	吉田 英嗣										
U	05	O&P	[EJ] Innovative research at the intersection of geoscience and health science	Geoffrey S Plumlee	Christine McEntee	春日 文子										
U	06	O&P	[JJ] 地球惑星科学の進むべき道-7.防衛装備庁安全保障技術研究制度	大久保 修平	川橋 穂高	藤井 良一	田近 英一								日本学術会議	
[O] Public													EE: 0 / E.J: 0 / J.J: 6 / Total: 6			
O	01	O&P	[JJ] 若手研究者のためのキャリアパスセミナー	宋 菀瑞	吉川 知里	鈴木 由希										
O	02	O&P	[JJ] 学校教育における地球惑星科学用語	尾方 隆幸	根本 泰雄	小林 則彦	宮嶋 敏									
O	03	O&P	[JJ] 地球・惑星科学トピックセミナー	原 辰彦	成瀬 元	道林 克禎	関根 康人									
O	04	O&P	[JJ] キッチン地球科学 -手を動かすことの利点-	久利 美和	栗田 敬	熊谷 一郎										
O	05	O&P	[JJ] 高校生によるポスター発表	原 辰彦	道林 克禎	久利 美和	山田 耕									
O	06	O&P	[JJ] 日本のジオパーク-しくじりから見えてくるジオパークの理想像-	松原 典孝												
[P] Space and Planetary Sciences													EE: 12 / E.J: 5 / J.J: 6 / Total: 23			
P	PS 01	P	O&P	[EE] Outer Solar System Exploration Today, and Tomorrow	木村 淳	笠羽 康正	Vance Steven	Sayanagi M. Kunio								
P	PS 02	P	O&P	[EE] Small Bodies: Exploration of the Asteroid Belt and the Solar System at Large	eleonora ammannito	中本 泰史	安部 正真	石黒 正晃	Christopher T. Russell	渡邊 誠一郎						
P	PS 03	P	O&P	[EE] Regolith Science	和田 浩二	Patrick Michel	中村 昭子	Kevin John Walsh								
P	PS 04	P	O&P	[EJ] アルマによる惑星科学の新展開	百瀬 宗武	小林 浩	下条 圭美	野村 英子								
P	PS 05	P	O&P	[EJ] Mars and Mars system: results from a broad spectrum of Mars studies and aspects for future missions	宮本 英昭	臼井 寛裕	松岡 彰子	Sushil K Atreya								
P	PS 06	P	O&P	[EJ] あかつき金星周回1.5年とその科学成果	佐藤 毅彦	堀之内 武	山本 勝	Kevin McGouldrick							地球電磁気・地球惑星圏学会	
P	PS 07	P	O&P	[JJ] 惑星科学	鎌田 俊一	岡本 尚也									日本惑星科学会	
P	PS 08	P	O&P	[JJ] 月の科学と探査	長岡 央	諸田 智克	西野 真木	本田 親寿							地球電磁気・地球惑星圏学会 月科学研究会	
P	PS 09	P	O&P	[JJ] 宇宙における物質の形成と進化	橋 省吾	三浦 均	大坪 真文	野村 英子							新学術研究領域「宇宙分子進化」	
P	PS 10	P	O&P	[JJ] 太陽系における惑星物質の形成と進化	臼井 寛裕	宮原 正明	山口 亮	癸生川 陽子								
P	EM 11	P	O&P	[EE] Mesosphere-Thermosphere-Ionosphere Coupling in the Earth's Atmosphere	Chang Loren	Liu Huixin	齊藤 昭則	Tzu-Wei Fang								
P	EM 12	P	O&P	[EE] Space Weather, Space Climate, VarSITI	片岡 龍峰	Antti A Pulkkinen	華野 完也	塩川 和夫							地球電磁気・地球惑星圏学会	
P	EM 13	P	O&P	[EE] Exploring space plasma processes with Magnetospheric Multiscale (MMS) mission	長谷川 洋	Thomas Earle Moore	Benoit Lavraud	Seiji Zenitani							地球電磁気・地球惑星圏学会	
P	EM 14	P	O&P	[EE] Dynamics in magnetosphere and ionosphere	堀 智昭	田中 良昌	中溝 葵	尾崎 光紀							地球電磁気・地球惑星圏学会	
P	EM 15	P	O&P	[EE] 太陽地球系結合過程の研究基盤形成	山本 衛	小川 泰信	野澤 信徳	吉川 顕正							地球電磁気・地球惑星圏学会	
P	EM 16	P	O&P	[EE] Physics of Earth's Inner Magnetosphere / Inner Magnetosphere Coupling Physics	Danny Summers	海老原 祐輔	三好 由純	Aleksandr Y Ukhorskiy	Jichun Zhang	桂華 邦裕	Dae-Young Lee	Yiqun Yu			地球電磁気・地球惑星圏学会	
P	EM 17	P	O&P	[EE] Recent Advances in Ionosphere Observation and Modeling for Monitoring and Forecast	Lin Charles	Yang-Yi Sun	陣 英克	Jaeheung PARK							AOGS	
P	EM 18	P	O&P	[EE] Origin of Earth-affecting Coronal Mass Ejections	Noé Lugaz	華野 完也	Neel P Savani	浅井 歩								
P	EM 20	P	O&P	[EJ] Heliosphere and Interplanetary Space	坪内 健	西野 真木	成行 泰裕								地球電磁気・地球惑星圏学会	
P	EM 21	P	O&P	[JJ] 宇宙プラズマ理論・シミュレーション	梅田 隆行	成行 泰裕	三宅 洋平	中村 匡							地球電磁気・地球惑星圏学会	
P	EM 22	P	O&P	[JJ] 大気圏・電離圏	大塚 雄一	津川 卓也	川村 誠治								地球電磁気・地球惑星圏学会	
P	CG 23	P	O&P	[EJ] 宇宙・惑星探査の将来計画と関連する機器開発の展望	笠原 慧	亀田 真吾	尾崎 光紀	笠原 禎也							地球電磁気・地球惑星圏学会	
P	CG 24	P	O&P	[EJ] 惑星大気圏・電離圏	関 華奈子	高橋 芳幸	中川 広務	深沢 圭一郎							地球電磁気・地球惑星圏学会	
[A] Atmospheric and Hydrospheric Sciences													EE: 24 / E.J: 9 / J.J: 20/ Total: 53			
A	AS 01	A	O&P	[EE] 3D Cloud Modeling as a Tool for 3D Radiative Transfer, and Conversely	Thomas Fauchez	Anthony B Davis	岩淵 弘信	鈴木 健太郎								
A	AS 02	A	O&P	[EE] Cloud-Resolving Model Simulations for Cloud-Related Processes in Climate and Weather Studies	Toshi Matsui	佐藤 正樹	Wei-Kuo Tao								日本気象学会	
A	AS 03	A	O&P	[EE] 最新の気象科学: 海大陸研究強化年-YMC	米山 邦夫	Chidong Zhang	竹見 哲也								日本気象学会	
A	AS 04	A	O&P	[EE] Global Carbon Cycle Observation and Analysis	三枝 信子	Patra Prabir	町田 敏暢	David Crisp								
A	AS 05	A	O&P	[EE] Contributions of local and long-range transport to air pollutants in mega-cities	Hongliang Zhang	Jianlin Hu	Sri Harsha Kota	Jia Xing							EGU	
A	AS 06	A	O&P	[EE] 台風研究の新展開-過去・現在・未来	中野 満寿男	和田 章義	金田 幸恵	伊藤 耕介							日本気象学会	
A	AS 07	A	O&P	[EE] Aerosol impacts on air quality and climate	Kyu-Myong Kim	安成 哲平	Mian Chin	竹村 俊彦								
A	AS 08	A	O&P	[EE] 雲降水過程の統合的理解に向けて	鈴木 健太郎	高萩 緑	Nagio Hirota	Tomoki Miyakawa								
A	AS 09	A	O&P	[EE] 成層圏-対流圏相互作用 -統一領域としての新しい視点-	江口 菜穂	Rei Ueyama	Sean M Davis	Seok Woo Son								
A	AS 10	A	O&P	[EE] Interhemispheric and intrahemispheric coupling of the atmosphere	佐藤 薫	堤 雅基	富川 喜弘									
A	AS 12	A	O&P	[EE] 高性能スーパーコンピュータを用いた最新の気象科学	瀬古 弘	三好 達正	小玉 知央	滝川 雅之							日本気象学会	
A	AS 11	A	O&P	[JJ] 大気化学	入江 仁士	町田 敏暢	谷本 浩志	岩本 洋子							日本大気化学会	
A	OS 13	A	O&P	[EE] 陸域海洋相互作用	山敷 庸亮	升本 順夫	Behera Swadhin	宮澤 泰正							日本海洋学会 水文・水資源学会	
A	OS 14	A	O&P	[EE] Marine ecosystems and biogeochemical cycles: theory, observation and modeling	平田 貴文	伊藤 進一	Eileen E Hofmann	Enrique N Curchitser							日本海洋学会	
A	OS 15	A	O&P	[EE] 海洋混合に関わる諸問題	日比谷 紀之	Louis St Laurent	RenChieh Lien	Robin Ann Robertson							日本海洋学会	
A	OS 16	A	O&P	[EE] 地球規模環境変化に関する分野横断的海洋研究	河宮 未知生	伊藤 進一	栗原 晴子	見延 庄士郎							日本海洋学会	
A	OS 17	A	O&P	[EE] Climate variations in the Atlantic Ocean and their representation in climate models	Ingo Richter	Noel S Keenlyside	Thomas Spengler	Carlos R Mechoso							日本海洋学会	
A	OS 18	A	O&P	[EJ] Beyond physics-to-fish: Integrative impacts of climate change on living marine resources	Rebecca G Asch	Colleen Mary Petrik	Gabriel Reygondeau	Maria De Oca								
A	OS 19	A	O&P	[EJ] 海洋気候モデリングの現状と展望 (CMIP6/OMIPの紹介)	辻野 博之	小室 芳樹									日本海洋学会	
A	OS 20	A	O&P	[EJ] Research for a healthy ocean and a sustainable use of its resources and services	Thorsten Kiefer	山形 俊男	古谷 研									
A	OS 21	A	O&P	[JJ] 陸域と海洋をつなぐ水循環の物理過程	木田 新一郎	山崎 大	松村 義正	山敷 庸亮							日本海洋学会 水文・水資源学会	
A	OS 22	A	O&P	[JJ] 海洋物理学	東塚 知己	吉川 裕	Shinya Kouketsu	田中 祐希							日本海洋学会	

M	IS	24	S	O&P	[JJ] 海底～海面を貫通する海域観測データの統合解析	有吉 慶介	木戸 元之	稲津 大祐	高橋 成実										
M	IS	26	P	O&P	[JJ] 水惑星学	関根 康人	渋谷 岳造	玄田 英典	福士 圭介										
M	GI	27	A	O&P	[EE] Challenges of Open Science: Research Data Sharing, Infrastructure, and Scientific Communications	村山 泰啓	Toczko Sean	Cecconi Baptiste	© Brooks Hanson									Coalition for Publishing Data in the Earth and Space Sciences (COPDESS), Research Data Alliance (RDA)	
M	GI	28	A	O&P	[EE] Data assimilation: A fundamental approach in geosciences	中野 慎也	藤井 陽介	宮崎 真一	三好 建正									日本海洋学会、日本気象学会 データ同化研究連絡会、地球電 磁気・地球惑星圏学会	
M	GI	29	S	O&P	[EJ] データ駆動地球惑星科学	桑谷 立	Kondrashov Dmitri	長尾 大道	© Sergey Kravtsov										
M	GI	30	H	O&P	[JJ] 情報地球惑星科学と大量データ処理	村田 健史	大竹 和生	野々垣 進	堀之内 武									日本情報地質学会	
M	GI	31	H	O&P	[JJ] ソーシャルメディアと地球惑星科学	天野 一男	小口 高	伊藤 昌毅	山本 佳世子										
M	GI	32	P	O&P	[JJ] 計算科学による惑星形成・進化・環境変動研究の新展開	林 祥介	小河 正基	井田 茂	草野 完也										
M	AG	33	B	O&P	[EE] Satellite Land Surface Reflectance at Medium/High Resolution: Algorithms, Validation & Applications	© Jean-Claude Roger	© Eric Vermote	祖父江 真一	Ferran Gascon										
M	AG	34	A	O&P	[EJ] 福島原発事故により放出された放射性核種の環境動態	北 和之	恩田 裕一	五十嵐 康人	山田 正俊										
M	AG	35	S	O&P	[EJ] 海洋地球インフォマティクス	坪井 誠司	高橋 桂子	金尾 政紀	© Timothy Keith Ahern										
M	SD	36	P	O&P	[JJ] 宇宙食と宇宙農業	片山 直美													
M	TT	37	S	O&P	[EE] Cryoseismology – a new proxy for detecting surface environmental variations of the Earth –	豊国 源知	金尾 政紀	坪井 誠司	© Douglas Wiens										
M	TT	38	A	O&P	[EE] 統合地球観測システムとしてのGPS/GNSSの新展開	小司 禎教	加藤 照之	太田 雄策	瀬古 弘									日本測地学会	
M	TT	39	A	O&P	[JJ] インフラサウンド及び関連波動が繋ぐ多圏融合地球物理学の新描像	山本 真行	新井 伸夫	市原 美恵											
M	ZZ	40	H	O&P	[EE] Sustainable global groundwater management for human security	© Yoshihide Wada	谷口 真人	© Naota Hanasaki	© Yadu N Pokhrel										日本地下水学会
M	ZZ	41	H	O&P	[EJ] リスクコミュニケーションの未来 – 科学情報を社会にどう伝えるか	平田 直	Schorlemmer Danijel	木村 玲歌	大友 章司										
M	ZZ	42	H	O&P	[JJ] 地球科学の科学史・科学哲学・科学技術社会論	矢島 道子	山田 俊弘	青木 滋之	吉田 茂生										

2017 大会部屋割り案

国際会議場		
1F		
1	101	140
2	102	146
3	103	166
4	104	166
5	105	166
6	106	96
2F		
7	201A	124
8	201B	119
9	202	52
	203	—
	204	—
	205	—
10	国際会議室	456
11	コンベンションホール A	352
12	コンベンションホール B	352
3F		
13	301A	88
14	301B	122
15	302	154
16	303	154
17	304	134
APA ホテル 宴会棟 2F		
1	A01	120
2	A02	120
3	A03	120
4	A04	120
5	A05	120
	A06・・・不使用（休憩所）	—
6	A07	120
7	A08	120
8	A09	120



204
205
(大会本部)

203

202
52席

201A
124席
※メモ台付

201B
119席
※メモ台付

国際会議室 456席

コンベンション
ホールA
シアター形式
352席

コンベンション
ホールB
シアター形式
352席

213
男性
214
女性
215
216

お祈り部屋

ステージ
W10×D3 * H0.6m

ステージ
W10×D3 * H0.6m

2フロビー

【2×2×0.4m】

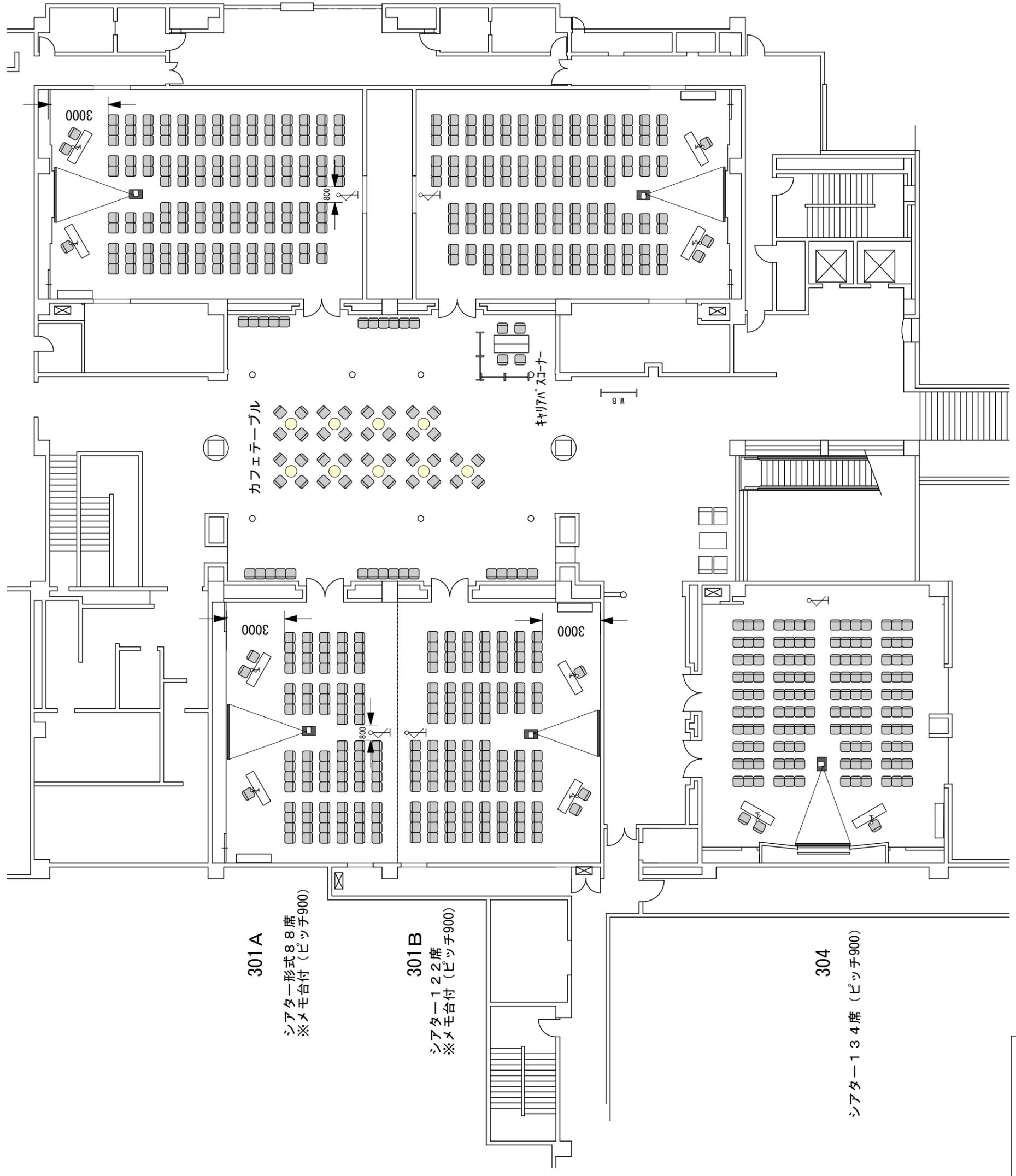
302
シアター154席 (ピッチ900)

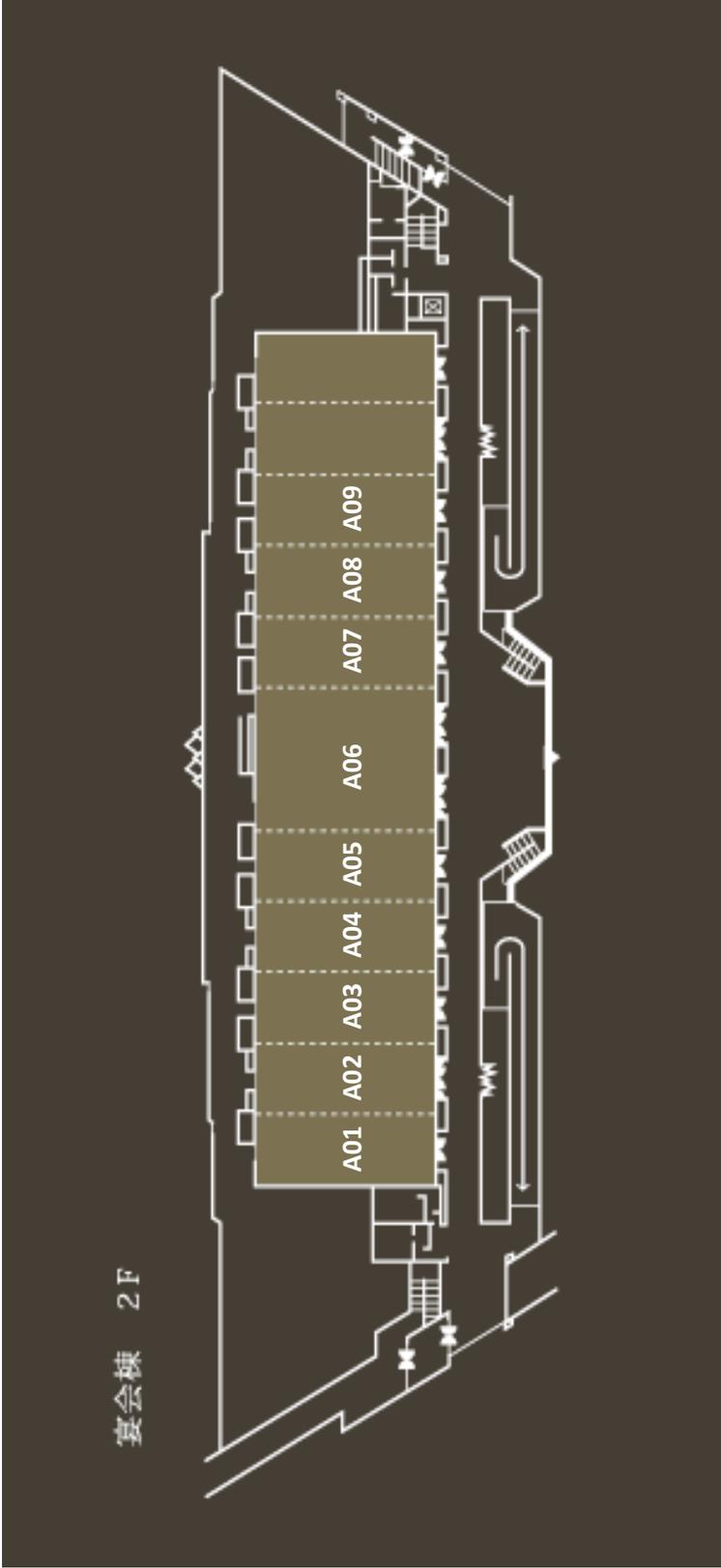
303
シアター154席 (ピッチ900)

301 A
シアター形式88席
※メモ台付 (ピッチ900)

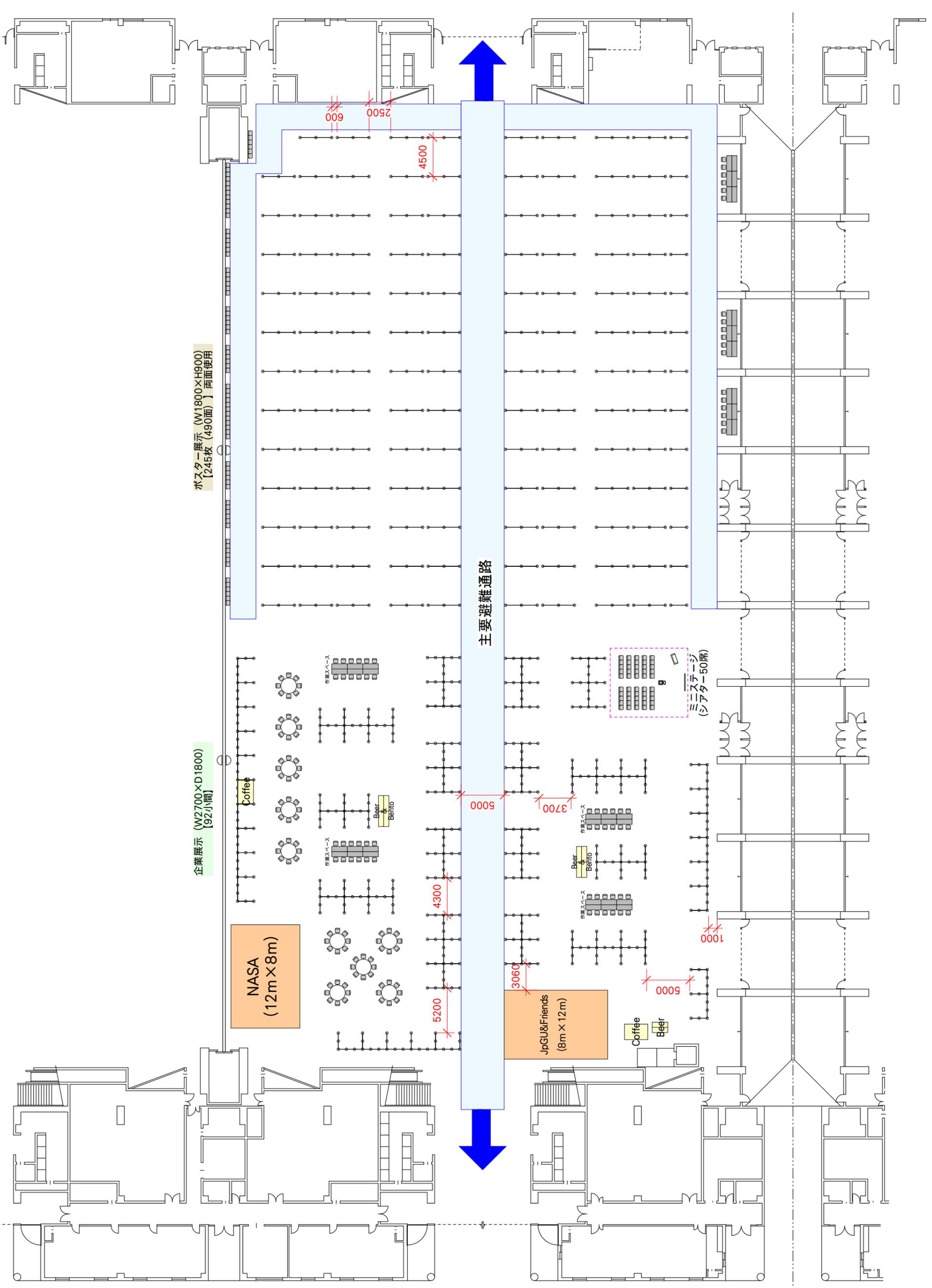
301 B
シアター122席
※メモ台付 (ピッチ900)

304
シアター134席 (ピッチ900)





※ A06 is not available as a conference room



JpGU2017年大会準備タスクフォース 理事会報告(案) 末廣 潔(TFヘッド)
Report to Board of Directors: K. Suyehiro (JpGU Task Force for 2017 Meeting)

前回第4回理事会(09/30/2016)以降の活動(since 09/30/16)

カレンダー(TF関連)

07/25-26 AGUとの会合(ワシントン本部)

09/14 AGUとの会合(ワシントン本部)

10/13 セッション提案締め切り

10/21 Joint Program Com. 準備会議(東京)

10/26 AGUとの会合(ワシントン本部)

11/10-12 Joint Program Com. 編成会議(幕張)

11/11 AGU COO Frank Krauseとの打ち合わせ(幕張)

今後

12/12-16 AGU Fall Meeting(サンフランシスコ) 打ち合わせ(月、火)あり。

2017/1/6~2/16 投稿受付期間

1: ジョイント大会へ向けてのAGUとの連携事項(Coordination with AGU)

○ AGUへの期待値: >5000 発表数(大会運営委員会からの採算ライン)。

○ サイエンスセッション編成: 共同作業済み。

○ U-05のGeohealthはAGUの新しいテーマ。U-01では科学出版の未来を展望。

U-02 Great Debateのテーマは、協議中(AGU新プログラム委員長就任待)

○ AGU側基調講演: 日米協議の上AGU側で複数候補者リストにより交渉中。

○ AGU側リーダーの役割: 会長 Eric Davidson、前会長 Margaret Leinen、前々会長 Carol Finn、CEO Chris McEntee。

○ AGU Leadership DinnerをAGU側で企画。日曜日もしくは水曜日。

○ イベント企画進行中(対応委員会との仲介):

AGU側提案ホットトピックラウンジ: 昼食時、ポスターコアタイム時の空き部屋で対応(45分検討)。ホットトピックは大会前に抽出。

Lunch Time Special Lectures: 協議中。JpGU主導?

AGU側提案学生キャリアセンター: 学生向けセミナー企画。JpGU企画と。

AGU側提案学生ポップアップ: 学生企画の発表コーナー。

Students Travel Support: 国際はAGU担当; 国内はJpGU担当。AGU補助17K。

Students Presentation Awards(OSPA): JpGU方式にAGU側参加者審査参加。

○ 広報伝達はAGUのノウハウを吸収。プレスとハイライト抽出。

○ 映像企画: ライブストリーム、オンデマンド、スチル

○ ツアー: 巡検案内、観光案内。

2: 国際化の方針の具現 Implementation of the internationalization policy

○ 2018年以降の引き継ぎ。AGUとの今後の協力様式の検討必要(大会中・後)。

2016/11/25 第5回理事会

Board of Directors meeting #5

構成メンバー（7名）：

末廣潔（TFヘッド・事務局・GSC）、近藤康久（情報システム）、高橋幸弘（広報普及）、西山忠男（2016プログラム委員長）、三宅弘恵（GSC）、Liu HuiXin（2017プログラム委員長）、小谷亜由美（大会運営委）

Y Kondo, A, Kotani, H Liu, H Miyake, T Nishiyama, K Suyehiro, Y Takahashi

アドバイザーメンバー（6名）

北和之（財務委員長・理事）、木村学（GSC委員長・理事）、島津浩哲（大会システム）、浜野洋三（大会運営委員長・理事・事務局長）、古村孝志（総務委員長・理事）、村山泰啓（情報システム委員長）

T Furumura, Y Hamano, G Kimura, K Kita, Y Murayama, H Shimazu

11/11 Summary Notes re JpGU-AGU Joint Meeting arrangements
Frank Krause, Kayoko Shirai, Minori Shinozaki (briefly), Kiyoshi Suyehiro

Personnel

(1) Denis may continue as the 2017 Program Com. Chair. Will be known by FM.

Scheduling

(1) AGU Leadership dinner will be set on Sunday or Wednesday avoiding conflicts with JpGU events.

(2) Touristing (asking JTB) and scientific excursions (ask Geological Society?) (to be put on AGU website). Fujisan and Oshima were the top favorites at Goldschmidt 2016.

AGU Leadership Presence

(1) President Eric Davidson (2017-2018) can give a speech at the President's reception, and/or Tuesday Reception and also may introduce the AGU Keynote Speaker (TBD).

(2) Carol Finn and Margaret Leinen will attend. They should have some role.

Outreach and Communications

(1) Does JpGU have plans to take professional **photographs** such as at Fellows ceremony?

Will consider after asking for a cost estimate.

(2) **Live video streams** such as the Keynote lectures? In case the room overflows.

(3) On-demand videos will be taken for some sessions. **How to select them?**

(4) All promotional e-mails must have an **unsubscribe instruction**.

(5) SNS Facebook/Twitter. Minori to see that in December. Ask for **volunteers?** JpGU has an app with good reputation.

Coordinating and Marketing (Sugimura-san)

(1) Press conference/interview space is already allocated outside #103.

(2) Press knowhows to obtain from AGU (e.g. Public information officers of individual institutions are asked to give feedback on AGU selected highlights.)

(3) Need a list of **press** contacts. Past press attendance?

(4) Need to identify **highlights**. Nanci at AGU may participate. Space, disasters?

(5) AGU wants an **English science writer** to write an article for EOS.

Science Session related

(1) U-01 (Kawahata/PEPS). AGU would like to have someone to present the "Future of scientific publications." Plan is to invite Rob Van der Hilst (Chair of Pubs and Communications Com). He will rotate off. **Need to coordinate with Kawahata-san.**

Registration

- (1) How to avoid 2-step registration for AGU members? Unique identifier. Not possible for 2017. Consider for 2018 and after.
- (2) This system can be used for 2018 for AGU members if there are Joint Sessions.

Ceremony

- (1) **Taira Award**. Prof. Dr. Heiko Pälike (Marum) Cambridge U. will be recognized with or without his presence.

Students Lounge/Students Career Ctr/Students Pop-ups/Hot Topics (Kotani-, Kyono-san)

- (1) Students Lounge is to be #203. Not much activities.
- (2) Students Career Ctr: Multipurpose room in Exhibit Hall. Presentations on themes such as: “The Peer Review Process and Tips to Improve Your Manuscript” ; How to Write an Abstract; How to Become a Reviewer and Review a Manuscript Effectively; Meet AGU Editors from *JGR: Planets and Tectonics*; About AGU; Data Management/Reproducibility; Publication and Scientific Ethics; Data Skills and Reproducibility; Meet AGU Editors from *JGR: Planets and Tectonics*; Gender Issues in the Earth sciences; Career Development Tools and Advice; How to Participate in the Thriving Earth Exchange. Eric is the coordinator at AGU-FM. Chairs + projectors + screen setup.
- (3) Students **Pop-ups**: Mini-stage in Exhibit Hall requested. EJ. AGU to give know-hows to JpGU.
- (4) **Hot Topics**: Pre-selected subjects for discussion after sessions. Brooks is the contact. <~45min. during lunch time and during poster core time (Hamano-san OK). Use an unused session room.

Travel Grants

- (1) International travel grants 17K (AGU) + 25K (JpGU) 1000USD/person? AGU to handle everything. <15K domestic by JpGU>
- (2) OSPA use JpGU system and NOT AGU system. Ask AGU participants to be judges AGU side contact is Brooks.

HOT TOPIC LOUNGE – AGU at IGC-35 2016

<http://www.35igc.org/Page/349/Schedule-of-Events>

Monday 20 min. each

The Peer Review Process and Tips to Improve Your Manuscript
How to Become a Reviewer and Review a Manuscript Effectively
How to Write an Abstract
Hot Topic Discussion: Planetary Sciences in Africa (30 min)

Tuesday 20 min. each

About AGU (30 min)
Meet AGU Editors from <i>JGR: Planets and Tectonics</i>
Hot Topic Discussion: Resourcing Future Generations (40 min)
Data Management/Reproducibility
Publication and Scientific Ethics

Wednesday 20 min. each

The Peer Review Process and Tips to Improve Your Manuscript (30)
Data Skills and Reproducibility
Hot Topic Discussion: Climate Change and Water Resources in Africa (40)
Gender Issues in the Earth sciences
Hot Topic Discussion: The Dynamic Earth and its Kimberlite, Cratonic Mantle and Diamond Record through Time

Thursday 20 min. each

How to Participate in the Thriving Earth Exchange (30)
Meet AGU Editors from <i>JGR: Planets and Tectonics</i>
Hot Topic Discussion: Hadean and Archean Earth
How to Become a Reviewer and Review a Manuscript Effectively
Career Development Tools and Advice

Friday 20 min. each

About AGU (30)
The Peer Review Process and Tips to Improve Your Manuscript

Student Programs

Student and Early Career Scientist Conference

<http://fallmeeting.agu.org/2016/students/events/student-early-career-scientist-conference/>

Pop-up Talks

<http://fallmeeting.agu.org/2016/students/events/pop-up-talks/>

Student Breakfast

<http://fallmeeting.agu.org/2016/event/student-breakfast/>

Student Volunteers

<http://fallmeeting.agu.org/2016/students/discounts/student-volunteers/>

Student Mixer

<http://fallmeeting.agu.org/2016/event/student-mixer/>

Outstanding Student Paper Awards:

<http://fallmeeting.agu.org/2016/students/outstanding-student-paper-award/>

Career and Research Advice Mentorship (CRAM) sessions

<https://education.agu.org/mentoring-programs/cram-sessions/>

Undergraduate Mentoring Program:

<https://education.agu.org/undergraduate-students/agu-fall-meeting-undergraduate-mentoring-program>

ダイバーシティ推進委員会 学協会別集計

大規模アンケート回答状況 **最終結果**

	回答者数	前回比 [人数]	割合(対全 数)[%]
男性	13162	1204	72.5
女性	4997	641	27.5
全数	18159	1845	100.0

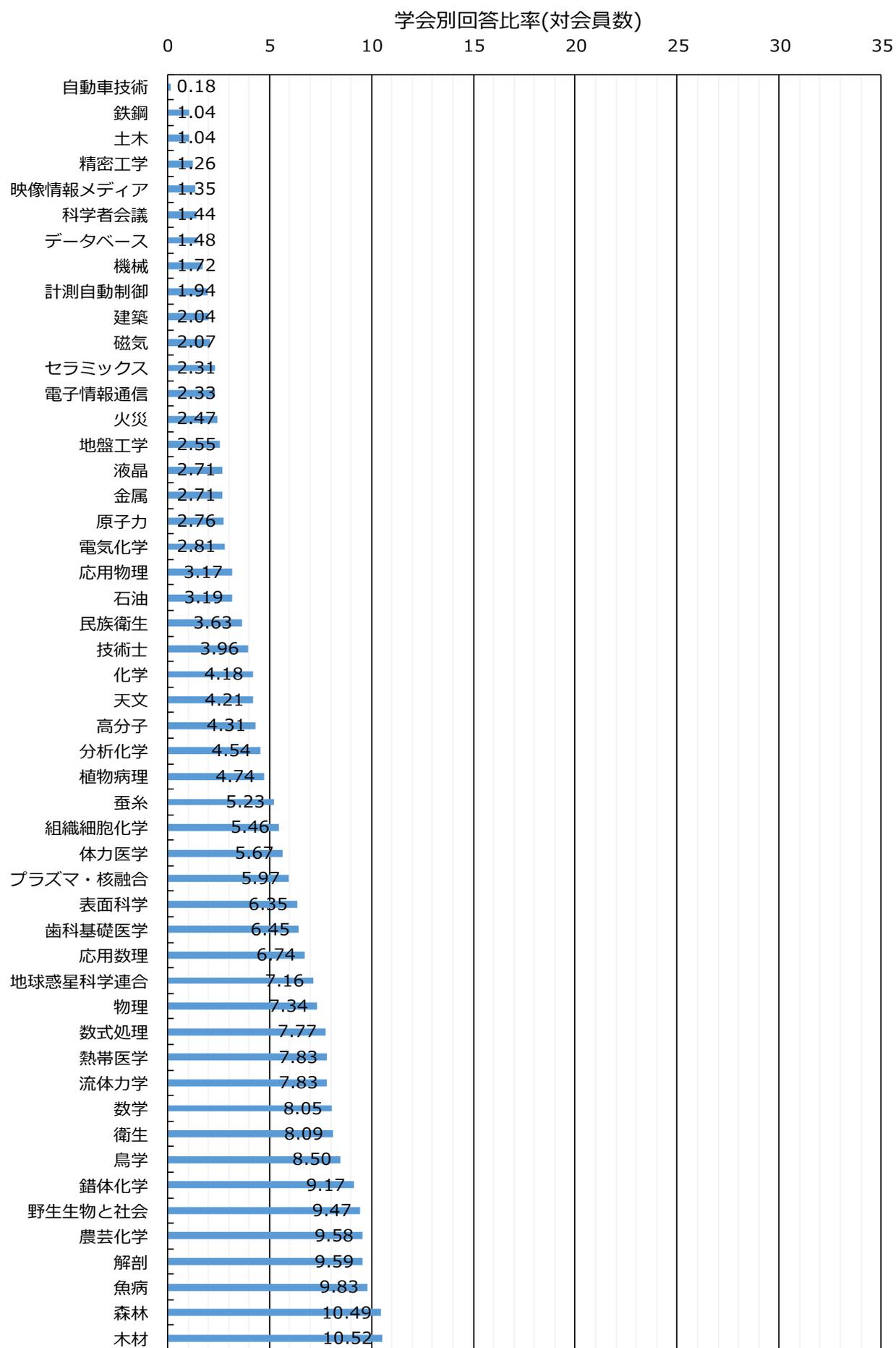
学会名(アイウエオ順)	回答数	前回比 [人数]	割合(対全 数)[%]	会員数	割合(対会 員数)[%]
無所属	1244	959	6.85		
育種	216	1	1.19	1821	11.86
遺伝	218	▲ 25	1.20	845	25.80
宇宙生物	50	8	0.28	278	17.99
衛生	147		0.81	1816	8.09
映像情報メディア	49	5	0.27	3706	1.32
液晶	23	▲ 19	0.13	849	2.71
園芸	317	119	1.75	2253	14.07
応用数理	106		0.58	1602	6.62
応用物理	644	▲ 71	3.55	20381	3.16
解剖	228	▲ 163	1.26	2378	9.59
化学	1202	▲ 249	6.62	29078	4.13
化学工学	1053	▲ 803	5.80	7752	13.58
科学者会議	65	▲ 7	0.36	4500	1.44
火災	30	8	0.17	1256	2.39
機械	619	451	3.41	36793	1.68
技術士	705	439	3.88	17858	3.95
魚病	45	11	0.25	458	9.83
魚類	161	7	0.89	1247	12.91
金属	156	10	0.86	5754	2.71
計測自動制御	110		0.61	5669	1.94
結晶	167	▲ 113	0.92	1198	13.94
原子力	209	0	1.15	7606	2.75
建築	693	434	3.82	34221	2.03
高分子	456	▲ 273	2.51	10661	4.28
細胞生物	288	▲ 18	1.59	1142	25.22
錯体化学	111	▲ 12	0.61	1211	9.17
蚕糸	25		0.14	478	5.23
歯科基礎医学	151	▲ 30	0.83	2356	6.41
磁気	47	▲ 33	0.26	2267	2.07
質量分析	132	72	0.73	1124	11.74
自動車技術	85	55	0.47	48244	0.18
地盤工学	234	▲ 4	1.29	9194	2.55
獣医	396	▲ 108	2.18	3463	11.44
種生物	87	▲ 42	0.48	390	22.31
植物	501	▲ 35	2.76	1849	27.10
植物化学調節	120		0.66	576	20.83
植物細胞分子生物	216		1.19	948	22.78
植物生理	579	▲ 94	3.19	2360	24.53
植物病理	94		0.52	2003	4.69
女性科学者の会	90	▲ 8	0.50	315	28.57
女性技術者フォーラム	22	11	0.12	135	16.30
進化	241	▲ 80	1.33	1143	21.08
神経科学	731	▲ 353	4.03	5812	12.58
神経化学	157	▲ 53	0.86	1273	12.33
森林	229	▲ 87	1.26	2183	10.49

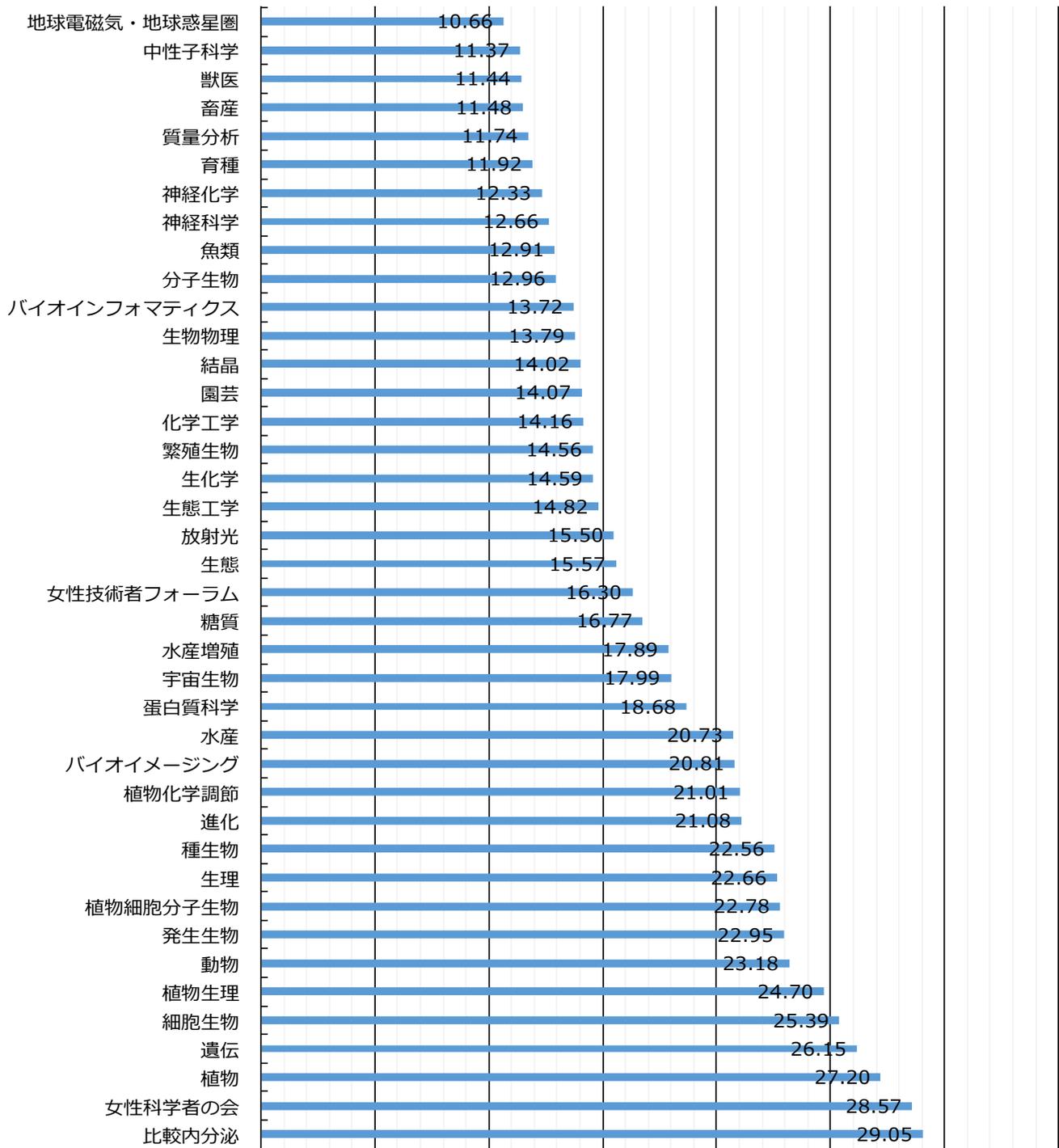
※複数回答含む

1506 874 2380

学会名(アイウエオ順)	回答数	前回比 [人数]	割合(対全 数)[%]	会員数	割合(対会 員数)[%]
水産	804	225	4.43	3883	20.71
水産増殖	156	40	0.86	872	17.89
数学	400	6	2.20	4982	8.03
数式処理	29		0.16	373	7.77
生化学	1121	▲ 90	6.17	7717	14.53
生態	610	▲ 362	3.36	3923	15.55
生態工学	55	0	0.30	371	14.82
生物物理	483	▲ 380	2.66	3509	13.76
精密工学	59	36	0.32	4845	1.22
生理	612	64	3.37	2732	22.40
石油	104	68	0.57	3356	3.10
セラミックス	102		0.56	4458	2.29
組織細胞化学	55		0.30	1007	5.46
体力医学	249		1.37	4429	5.62
蛋白質科学	276	▲ 57	1.52	1483	18.61
地球電磁気・地球惑星圏	76	▲ 37	0.42	713	10.66
地球惑星科学連合	629	75	3.46	8832	7.12
畜産	227	▲ 71	1.25	2004	11.33
中性子科学	72	▲ 64	0.40	633	11.37
鳥学	112	8	0.62	1318	8.50
データベース	31	▲ 29	0.17	2091	1.48
鉄鋼	95	29	0.52	9111	1.04
電気化学	147	38	0.81	5339	2.75
電子情報通信	760	170	4.19	32814	2.32
天文	126		0.69	2994	4.21
糖質	164	42	0.90	996	16.47
動物	583	▲ 52	3.21	2541	22.94
土木	407	50	2.24	39294	1.04
熱帯医学	54		0.30	690	7.83
農芸化学	1006	375	5.54	10540	9.54
バイオイメージング	72	19	0.40	346	20.81
バイオインフォマティクス	83	▲ 19	0.46	605	13.72
発生物	306	▲ 161	1.69	1342	22.80
繁殖生物	135	▲ 35	0.74	934	14.45
比較内分泌	131	▲ 9	0.72	451	29.05
表面科学	108	▲ 33	0.59	1717	6.29
物理	1318	▲ 898	7.26	17959	7.34
プラズマ・核融合	102	▲ 51	0.56	1725	5.91
分子生物	1779	▲ 669	9.80	13797	12.89
分析化学	302	111	1.66	6648	4.54
放射光	211	17	1.16	1368	15.42
木材	193	▲ 82	1.06	1834	10.52
民族衛生	25		0.14	688	3.63
野生生物と社会	43		0.24	454	9.47
流体力学	99		0.55	1277	7.75
その他	4723	1084	26.01		

ダイバーシティ推進委員会 学会別グラフ(会員数)



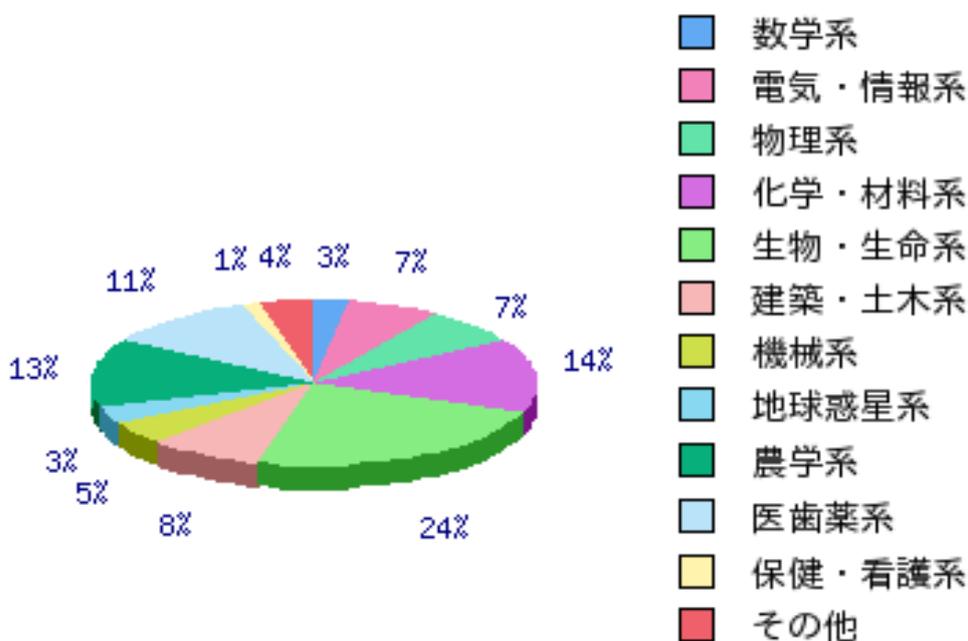


ダイバーシティ推進委員会 専門分野別集計

大規模アンケート回答状況

最終結果

専門分野別(学生以外)	回答者数	割合(対全数)[%]
数学系	418	2.6
電気・情報系	1083	6.7
物理系	1140	7.1
化学・材料系	2288	14.2
生物・生命系	3806	23.5
建築・土木系	1333	8.2
機械系	759	4.7
地球惑星系	554	3.4
農学系	2163	13.4
医歯薬系	1770	11.0
保健・看護系	187	1.2
その他	662	4.1
全数	16163	100.0



2016年度第2回地球惑星科学連合災害対応委員会 議事録(案)

日時：2016年11月8日10:00~12:10

場所：東京工業大学キャンパスイノベーションセンター 広島大学東京オフィス 408

出席者：奥村(委員長), 三浦(日本火山学会), 山下(東京地学協会), 岡田(地球電磁気・地球惑星圏学会), 小口(日本粘土学会), 青木(日本地理教育学会) 卜部(日本第四紀学会), 小俣(日本活断層学会), 小司(日本気象学会), 益田(日本地球化学会), 北村(日本古生物学会/地球環境史学会), 宇根(日本地図学会), 川畑(日本地質学会)(13名)

議事

1. 今年度環境災害対応委員長の互選

出席委員により, 委員長:奥村晃史, 副委員長:川畑大作・吉田英嗣を承認した.

2. 2016年度第1回 環境災害対応委員会議事録承認.

3. 2016年の自然災害等に対する学協会の対応.

火山学会:阿蘇噴火には熊本大学・産総研が対応. 学会で速報.

古生物学会:熊本地震による博物館の被災と地震対応.

日本地下水学会・日本水文学会:熊本地震調査グループ結成, 調査補助実施.

日本地理学会, 日本第四紀学会:防災学術連携体での活動, 熊本地震情報の発信.

日本地球化学会:学会の社会的な問題への対応を検討. ゴールドシュミットで福島.

活断層学会:熊本地震地表地震断層を保存を熊本県・益城町に依頼. 調査注意喚起.

粘土学会:福島を除染補助について9月の学会で議論を行った

気象学会:気象災害委員会が活動. 気象災害について定例のセッション実施を検討.

東北・北海道の風水害について昨年の鬼怒川水害に比べて反応が薄い点を議論.

地図学会:2019年に日本で国際学会開催, その際災害対応のセッションを設ける予定.

地質学会:学会から調査団の派遣していない. ウェブで情報紹介・学会で研究報告.

3. 防災学術連携体への対応

- ・7月16日熊本地震三ヶ月報告会：各学協会報告多数。地球惑星科学連合報告なし。
- ・学術の動向11月号『52学会の結集による防災への挑戦-熊本地震における取り組み』
- ・第1回防災推進国民大会：回廊で地球惑星科学連合ポスター展示。28日シンポジウムワークショップで学協会多数・地球惑星科学連合の報告。たいへん盛況であった。
- ・12月第2回防災学術連携シンポジウム：奥村が地球惑星科学連合の取り組みを報告。
- ・各学会の取り組みについて紹介した。

4. 2017年連合大会ユニオンシンポジウム（配付資料4）

昨年とタイトルは同様

- ・AGUとのジョイントミーティングのため口頭発表は日本語でスライドは英語（JE）
- ・IUGSのジオハザード委員会セッションとの接続を検討する。
- ・セッション内容について議論をおこなった。

防災学術連携体の工学分野の指導者、国際的な災害対応組織を招待してはどうか。

理学系と工学系の災害研究・対応を対比して共同を推進するような発表を考える。

およそ半分を従来通り各学協会からの報告、それ以外を国際的、対外的（地球惑星科学コミュニティ外：工学系）を考えてみる。

5. 2017年度予算・活動計画：昨年度とほぼ同様

6. その他

- ・2016年11月13日日本学術会議主催学術フォーラム紹介
- ・「災害被災地域の人を対象とした調査実施における倫理的配慮の実態調査」依頼

- 安全工学会
- 横断型基幹科学技術研究団体連合
- 環境システム計測制御学会
- 空気調和・衛生工学会
- 計測自動制御学会
- こども環境学会
- 砂防学会
- 石油学会
- ダム工学会
- 地盤工学会
- 地域安全学会
- 地理情報システム学会
- 土木学会
- 日本応用地質学会
- 日本海洋学会
- 日本火災学会
- 日本火山学会
- 日本風工学会
- 日本活断層学会
- 日本看護系学会協議会
- 日本機械学会
- 日本気象学会
- 日本救急医学会
- 日本計画行政学会
- 日本建築学会
- 日本原子力学会
- 日本公衆衛生学会
- 日本古生物学会
- 日本コンクリート工学会
- 日本災害看護学会
- 日本災害情報学会
- 日本災害復興学会
- 日本自然災害学会
- 日本森林学会
- 日本地震学会
- 日本地震工学会
- 日本地すべり学会
- 日本自治体危機管理学会
- 日本社会学会
- 日本集団災害医学会
- 日本造園学会
- 日本第四紀学会
- 日本地域経済学会
- 日本地球惑星科学連合
- 日本地質学会
- 日本地図学会
- 日本地理学会
- 日本都市計画学会
- 日本水環境学会
- 日本リモートセンシング学会
- 日本緑化学会
- 日本ロボット学会
- 農業農村工学会
- 廃棄物資源循環学会

開催趣旨

近年、地球温暖化による気候変動の影響などで日本の台風・豪雨災害が激化している。今年の台風第十号等による記録的な大雨は、北海道・岩手県に甚大な被害をもたらした。

日本学術会議の防災減災・災害復興に関する学術連携委員会は、防災学術連携体の54の構成学会とともに自然災害の軽減に向けて学術連携を進めている。このたびは「激甚化する台風・豪雨災害とその対策」をテーマにして「国土利用と台風・豪雨災害」、「台風・豪雨災害への備え」および「台風・豪雨災害時の避難・救助・復興」の3セッションの構成で、公開シンポジウムを開催する。

防災に関わる各学会の専門家が集まり、研究成果や取り組みを発表すると共に、今後、わが国はどう備えていけば良いのかを議論する。

激甚化する台風・豪雨災害とその対策

日本学術会議主催公開シンポジウム
第2回防災学術連携シンポジウム

日時：平成二十八年十二月一日(木)午前10時～午後六時

会場：日本学術会議講堂(東京都港区六本木七丁目二十二番地三十四号)

主催：日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会



申込方法： 防災学術連携体ホームページからお申込下さい。

<http://janet-dr.com/>

定員： 300名

当日の講演概要： 「学術の動向」11月号特集(700円)を頒布予定

当日の発表パワーポイントは、前日の夕方に上記ホームページに掲載予定

問合せ先： 防災学術連携体: 菅原健介(土木学会) sugawara@jsce.or.jp 03-3355-3443

小野口弘美 info@janet-dr.com 日本学術会議事務局: 鈴木宗光 03-3403-1056

10:00-10:15

司会 防災学術連携体副代表幹事 依田照彦
 挨拶 日本学術会議会長 大西 隆
 主旨説明 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会委員長／防災学術連携体代表幹事 和田 章
 来賓挨拶 政府関係者

10:15-12:35 セッション1 「国土利用と台風・豪雨災害」

趣旨:「国土利用、台風・豪雨災害、風水・土砂災害」に関係の深い学会の代表と日本学術会議の専門家が集まり、気候変動、発生メカニズム、観測・予測、国土利用、都市計画、情報伝達等について、研究成果や取組みを説明すると共に、今後わが国はどうか備えていけば良いのかを議論する。

日本気象学会、日本海洋学会、日本地球惑星科学連合、日本リモートセンシング学会、横断型基幹科学技術研究団体連合、日本地理学会、地理情報システム学会、日本地図学会、日本都市計画学会、ダム工学会、日本自然災害学会

— 昼食休憩 —

13:20-15:40 セッション2 「台風・豪雨災害への備え」

趣旨:「台風・豪雨災害への備え」に関係の深い学会の代表と日本学術会議の専門家が集まり、インフラ・建物の防災・老朽化対策、地盤情報と対策、地域経済、自然環境等について、研究成果や取組みを説明すると共に、今後わが国はどうか備えていけば良いのかを議論する。

日本風工学会、土木学会、日本応用地質学会、日本地すべり学会、地盤工学会、日本コンクリート学会、日本水環境学会、農業農村工学会、日本地域経済学会、日本造園学会、日本森林学会

— 休憩 —

16:00-17:50 セッション3 「台風・豪雨災害時の避難・救助・復興」

趣旨:「台風・豪雨災害時の避難・救助・復興」に関係の深い学会の代表と日本学術会議の専門家が集まり、防災体制、情報伝達、避難、救援、災害医療、インフラ・設備の保全・復旧について、研究成果や取組みを説明すると共に、今後わが国はどうか備えていけば良いのかを議論することも環境学会、日本災害情報学会、廃棄物資源循環学会、日本集団災害医学会、日本災害看護学会、日本看護系学会協議会、日本自治体危機管理学会、日本緑化工学会

17:50-18:00

まとめの言葉 日本学術会議会員・防災学術連携体事務局長 米田雅子
 閉会挨拶 防災学術連携体代表幹事 廣瀬典昭

セッション1 「国土利用と台風・豪雨災害」

司会・趣旨説明 日本気象学会 筆保弘徳
 講演1「激化する台風・豪雨災害」
 日本気象学会 筆保弘徳
 講演2「エルニーニョ／ラニーニャ現象と台風」
 日本海洋学会 安田珠幾
 講演3「気象災害リスクの理解と軽減への地球惑星科学の学際的な取り組み」
 日本地球惑星科学連合 奥村晃史
 講演4「防災減災の観点から考える衛星画像の有効利用」日本リモートセンシング学会 桑原祐史
 質疑応答1
 講演5「社会経済的価値データとリスク事象データの空間的統合」
 横幹連合 佐藤彰洋
 講演6「防災における土地条件と正しい地形用語の使用」
 日本地理学会 海津正倫
 講演7「災害時のリスク情報管理におけるGISの役割」
 地理情報システム学会 後藤真太郎
 講演8「クライシスマッピングー世界中の市民がつくる被災地地図」
 日本地図学会 古橋大地
 質疑応答2
 講演9「豪雨災害と都市・地域：8.20 広島豪雨災害と防災まちづくり」
 日本都市計画学会 横張 真
 講演10「滋賀県流域治水条例について」
 ダム工学会 美濃部博
 講演11「豪雨・洪水・土砂災害リスクと土地利用」
 日本自然災害学会 竇 馨
 質疑応答3
 総括「国土利用と台風・豪雨」
 日本自然災害学会 高橋和雄

セッション2 「台風・豪雨災害への備え」

司会 土木学会 本田利器
 趣旨説明 日本学術会議 小松利光
 講演1「耐風工学の進展と台風・竜巻対策」
 日本風工学会 小林文明
 講演2「豪雨（洪水）から社会を守る」
 土木学会 山田 正
 講演3「防災の観点から考える地形・地質情報の有効活用」
 日本応用地質学会 中曽根茂樹
 講演4「地すべり地形分布図に基づく斜面防災」
 日本地すべり学会 檜垣大助
 講演5「豪雨災害に関する地盤工学分野のとりくみ」
 地盤工学会 村上 章
 講演6「コンクリート構造物の耐荷性能と劣化対策」
 日本コンクリート工学会 丸山久一
 講演7「豪雨対策に向けた水道システムの機能強化」
 日本水環境学会 古米弘明
 講演8「農業農村の風水害・土砂災害と保全対策」
 農業農村工学会 鈴木尚登
 講演9「災害と地域経済」
 日本地域経済学会 岡田知弘
 講演10「防災減災とランドスケープ」
 日本造園学会 篠沢健太
 講演11「Eco-DRRとしての森林の機能の活用」
 日本森林学会 坪山良夫
 質疑応答「台風・豪雨災害への備え」
 コーディネータ 日本学術会議 小松利光

セッション3 「台風・豪雨災害時の避難・救助・復興」

司会 日本集団災害医学会 小井土雄一
 趣旨説明 廃棄物資源循環学会 森口祐一
 講演1「自然災害と子ども・地域力」
 子ども環境学会 小澤紀美子
 講演2「災害情報学による被害軽減の課題」
 日本災害情報学会 片田敏孝
 講演3「水害廃棄物処理における分野間連携の可能性」
 廃棄物資源循環学会 多島 良
 講演4「広島土砂災害、鬼怒川洪水のDMAT」
 日本集団災害医学会 近藤祐史
 講演5「国内外の水災害と看護の対応」
 日本災害看護学会 神原咲子
 講演6「熊本地震ならびに台風被害後における看護職としての支援」
 日本看護系学会協議会 宇佐美しおり
 講演7「過去の災害教訓にみる基礎自治体の防災体制と避難判断の課題」
 日本自治体危機管理学会 飯塚智規
 講演8「日本緑化工学会が災害時の復興に果たす役割」
 日本緑化工学会 柴田昌三
 質疑応答「台風・豪雨災害時の避難・救助・復興」
 コーディネータ 廃棄物資源循環学会 森口祐一

0-4.表紙～連携体について

更新日	No	題目	学会名	氏名
校了		表紙		
校了		表紙の画	防災学術連携体事務局長	米田雅子
校了	0	特集の趣旨	防災学術連携体代表幹事	和田 章
校了	1	防災・減災と自助・共助	日本学術会議会長	大西 隆
校了	2	東日本大震災後の学会連携と防災学術連携体の設立	早稲田大学教授	依田照彦
校了	3	防災学術連携体のめざすもの	防災学術連携体代表幹事	廣瀬典昭
校了	4	日本学術会議と学協会の新たな連携	防災学術連携体事務局長	米田雅子

5.東京圏の大地震にどう備えるか

更新日	No	題目	学会名	氏名
校了	5-1	「東京圏の大地震にどう備えるか」の概説	日本地震学会	加藤照之
			千葉工業大学教授	田村和夫
校了	5-2	首都直下地震の姿と防災対策	日本地震学会	平田 直
校了	5-3	関東の活断層と防災	日本活断層学会	熊木洋太
校了	5-4	津波堆積物からの知見	日本古生物学会	北村晃寿
校了	5-5	首都圏地震被害想定	日本地震工学会	目黒公郎
校了	5-6	都市・建築の耐震を進めよう	日本建築学会	和田 章
校了	5-7	原子力安全と発電所の地震への備え	日本原子力学会	関村直人
校了	5-8	大規模地震時の火災リスクの様相と対策	日本火災学会	関澤 愛
校了	5-9	災害医療と日頃の備え	日本救急医学会	勝見 敦
校了	5-10	次の震災からの東京復興へあるべき備え	日本災害復興学会	加藤孝明

6.火山災害にどう備えるか

更新日	No	題目	学会名	氏名
校了	6-1	「火山災害にどう備えるか」の概説	砂防学会	石川芳治
			日本火山学会	井口正人
ゲラ作成(校正中)	6-2	地質学が明らかにする火山噴火	日本地質学会	及川輝樹
校了	6-3	百年・千年・万年スケールでみた火山噴火の頻度・特徴	日本第四紀学会	鈴木毅彦
校了	6-4	災害の軽減に貢献するための火山観測研究	日本火山学会	井口正人
校了	6-5	火山地域の土砂災害対策	砂防学会	石川芳治
校了	6-6	火山とリモートセンシング	計測自動制御学会	野波健蔵
校了	6-7	火山災害復旧の無人化施工～ 建設機械の遠隔操作による応急的復旧工事	日本ロボット学会	油田信一
校了	6-8	警報伝達と避難対策	地域安全学会	関谷直也
校了	6-9	火山防災計画と広域連携	日本計画行政学会	山本佳世子

7.国土利用と台風・豪雨災害

更新日	No	題目	学会名	氏名
校了	7-1	「激化する台風・豪雨災害」の概説	日本自然災害学会	高橋和男
			日本気象学会	筆保弘徳
校了	7-2	激化する台風・豪雨災害	日本気象学会	筆保弘徳
校了	7-3	エルニーニョ/ラニーニャ現象と台風	日本海洋学会	安田珠幾
校了	7-4	気象災害リスクの理解と軽減への地球惑星科学の学際的な取り組み	日本地球惑星科学連合	奥村晃史
校了	7-5	社会経済的価値データとリスク事象データの空間的統合	横幹連合	佐藤彰洋
校了	7-6	防災における土地条件と正しい地形用語の使用	日本地理学会	海津正倫
校了	7-7	災害時のリスク情報管理におけるGISの役割	地理情報システム学会	後藤 真太郎
校了	7-8	クライシスマッピングー世界中の市民がつくる被災地地図	日本地図学会	古橋大地
校了	7-9	豪雨災害と都市・地域 8.20 広島豪雨災害と防災まちづくり	日本都市計画学会	横張 真
校了	7-10	滋賀県流域治水条例について	ダム工学会	美濃部 博
校了	7-11	豪雨・洪水・土砂災害リスクと土地利用	日本自然災害学会	竇 馨
校了	7-12	防災減災の観点から考える衛星画像の有効利用	日本リモート・センシング学会	伊東明彦

8.台風・豪雨災害への備え

更新日	No	題目	学会名	氏名
校了	8-1	豪雨災害への備えー気候変動影響を考慮してー	土木学会	中北英一
校了	8-2	耐風工学の進展と台風・竜巻対策	日本風工学会	小林文明
校了	8-3	豪雨（洪水）から社会を守る	土木学会	山田正
校了	8-4	防災の観点から考える地形・地質情報の有効活用	日本応用地質学会	中曽根茂樹
校了	8-5	地すべり地形分布図に基づく斜面防災	日本地すべり学会	檜垣大助
校了	8-6	豪雨災害に関する地盤工学分野のとりくみ	地盤工学会	村上 章
校了	8-7	コンクリート構造物の耐荷性能と劣化対策	日本コンクリート工学会	丸山久一
校了	8-8	豪雨対策に向けた水道システムの機能強化	日本水環境学会	古米弘明
校了	8-9	農業農村の風水害・土砂災害と保全対策	農業農村工学会	鈴木尚登
校了	8-10	災害と地域経済	日本地域経済学会	岡田知弘
校了	8-11	防災減災とランドスケープ	日本造園学会	篠沢健太
校了	8-12	Eco-DRRとしての森林の機能の活用	日本森林学会	坪山良夫

9.台風・豪雨災害時の避難・救助・復興

更新日	No	題目	学会名	氏名
ガラ作成(校正中)	9-1	「台風・豪雨災害時の避難・救助・復興」の概	廃棄物資源循環学会	森口祐一

		説	日本集団災害医学会	小井土雄一
校了	9-2	自然災害と子ども・地域力	子ども環境学会	小澤紀美子
校了	9-3	災害情報学による被害軽減の課題	日本災害情報学会	片田敏孝
校了	9-4	水害廃棄物処理における分野間連携の可能性	廃棄物資源循環学会	多島 良
ゲラ作成(校正中)	9-5	広島土砂災害、鬼怒川洪水のDMAT	日本集団災害医学会	近藤祐史
校了	9-6	国内外の水災害と看護の対応	日本災害看護学会	神原咲子
校了	9-7	過去の災害教訓にみる基礎自治体の防災体制と避難判断の課題	日本自治体危機管理学会	飯塚智規
校了	9-8	日本緑化工学会が災害時の復興に果たす役割	日本緑化工学会	柴田昌三

10.防災学術連携体の活動と組織

更新日	No	題目	学会名	氏名
校了	10	防災学術連携体の活動と組織	防災学術連携体事務局長	塚田幸広

11.防災学術連携体の参加学会、代表、防災連携委員の名簿

再校ゲラ	11	防災学術連携体の会員（学会）一覧 および各学会の防災連携委員名簿（2016年9月3日）
------	----	---

公益社団法人日本地球惑星科学連合

気象災害リスクの理解と 軽減への地球惑星科学の 学際的な取り組み



奥村 晃史

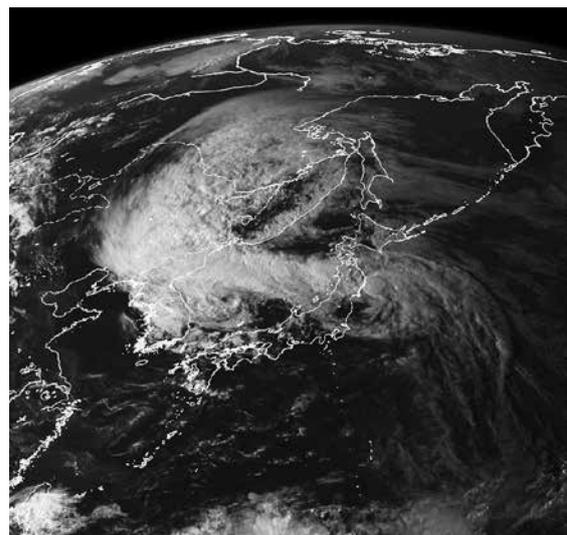
広島大学文学研究科教授
専門：地震地質学

自然災害の多くは、固体地球・大気・水圏の物理的なプロセスが地表で活動する人間に被害をもたらす。そのリスクを理解して軽減するためには、物理的プロセスの観測と理解、人間環境の脆弱性の把握、災害への曝露の認識と軽減が重要な課題となる。気象災害に関しては、降水に至るまでの大気・水圏の研究、地表における水の挙動、洪水氾濫域の環境、崩壊・土石流など学際的な研究連携が必要である。日本地球惑星科学連合に加盟する50の学協会の上半数が気象災害に関わる研究を主とするかそれを重要な研究分野として包含しており、ほとんどの加盟学協会が気象災害と関わっている。

日本地球惑星科学連合の活動は宇宙惑星科学・大気水圏科学・地球人間圏科学・固体地球科学・地球生命科学の5つのサイエンスセッションによって担われている。毎年5月に開催される日本地球惑星科学連合大会では、セッションごとの複合領域・一般セッションとセッションを越えた全体の領域外・複数領域が開かれ、自然災害に関わる研究発表を多く受け入れている。2016年大会を例にして気象災害への取り組みを紹介する。連合全体の領域外・複数領域セッションでは『火山噴煙・積乱雲のモデリングとリモートセンシング』が開催され火山灰の上昇・流動・降下、台風と竜巻などの発表があった。大気水圏科学セッションではスーパーコンピュータを用いた台風、集中豪雨、土砂災害の分析と予測、地球観測衛星による台風予測、気象観測、地上レーダを用いた降水強度の評価の報告や、河川の流量観測のための高精度地形

計測の報告があった。地球人間圏セッションの地理学分野は、地盤高や沖積平野の微地形から洪水・低地の浸水の予測に実績があるが、2015年の関東・東北豪雨災害のセッションでは降水から浸水、地形、さらに避難に関わる発表が行われた。地形学は河川工学や斜面災害との関わりが深い。豪雨による浸食や洪水、表層崩壊に関わる発表が行われた。また同セッションの関連分野を横断する『人間環境と災害リスク』でも気象災害が主要なテーマとなっている。

このような学際的な気象災害とそのリスクの解明に加えて、地球惑星科学連合には常設の委員会として、環境災害対応委員会が設置され、27の学協会からの委員が各学協会の災害に関わる活動や調査成果の共有を進めると共に、毎年の大会で各学協会の取り組みを報告するセッションを主催している。



2016年8月30日午後16時10分。東北地方に接近する台風10号。情報通信研究機構・NICTサイエンスクラウド ひまわり衛星プロジェクト hima820160830161000fd.pngの一部。